

血液製剤使用状況等調査票 2023年度アンケート集計

長野県献血推進協議会輸血療法部会
事務局 長野県健康福祉部薬事管理課
長野県赤十字血液センター
学術情報・供給課 小野 綾香



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

調査の概要

1. 調査目的

長野県内の医療機関における輸血業務の実態を把握し、血液製剤の安全かつ適正な使用の推進に資する。

2. 調査対象施設

2022年度に長野県赤十字血液センターから輸血用血液製剤の納入実績があった長野県内の医療機関

3. 調査対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日

4. 回収率 66.9% (87施設／130施設)

N数は設問毎の回答施設に応じて変化する。

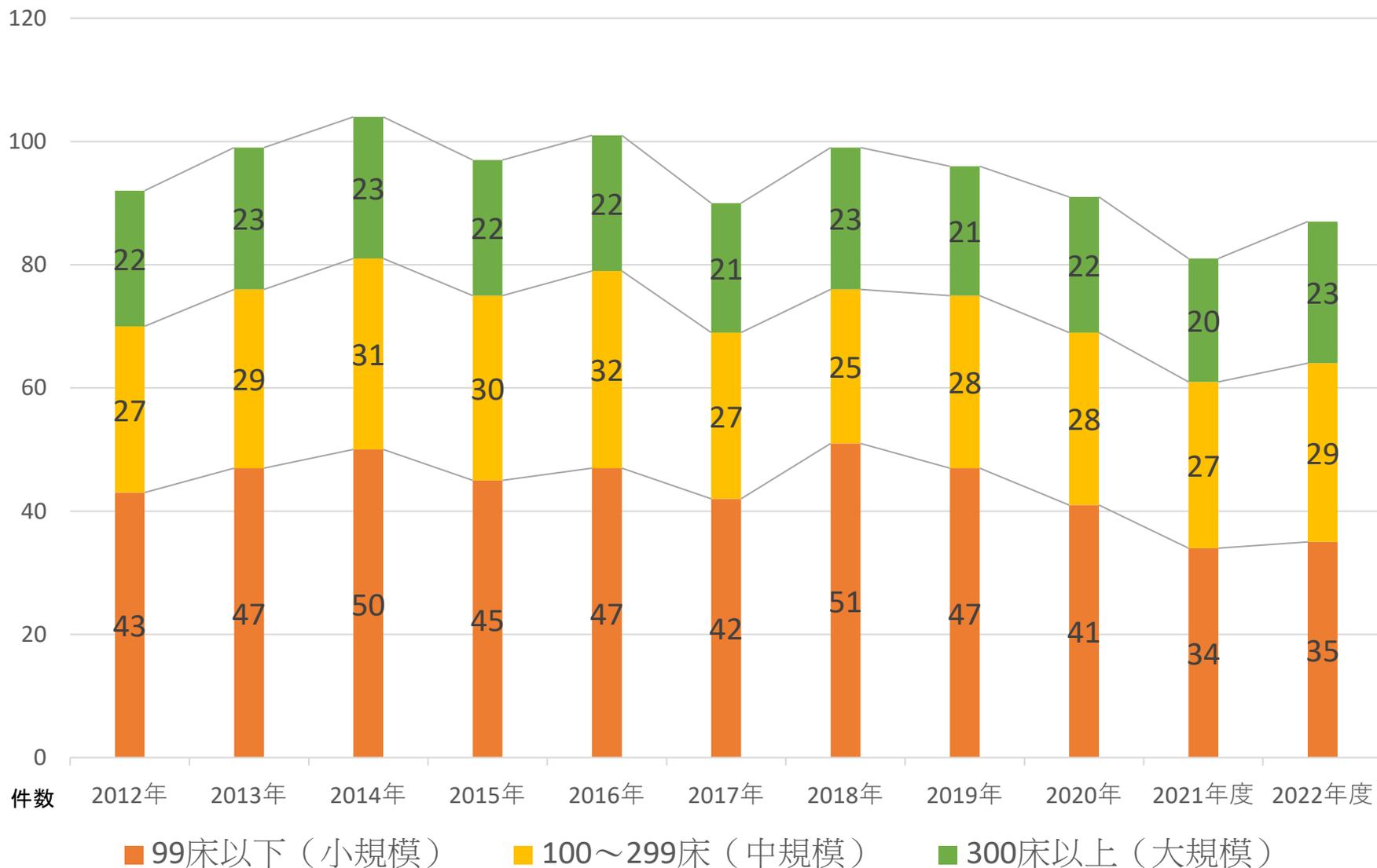
回答医療機関概要

施設の種類	施設数
大学病院	1
国立病院機構	4
公共・自治体病院	18
厚生連病院	11
日赤病院	5
医療法人関連病院	31
個人病院	2
診療所	13
その他	2
合計	87

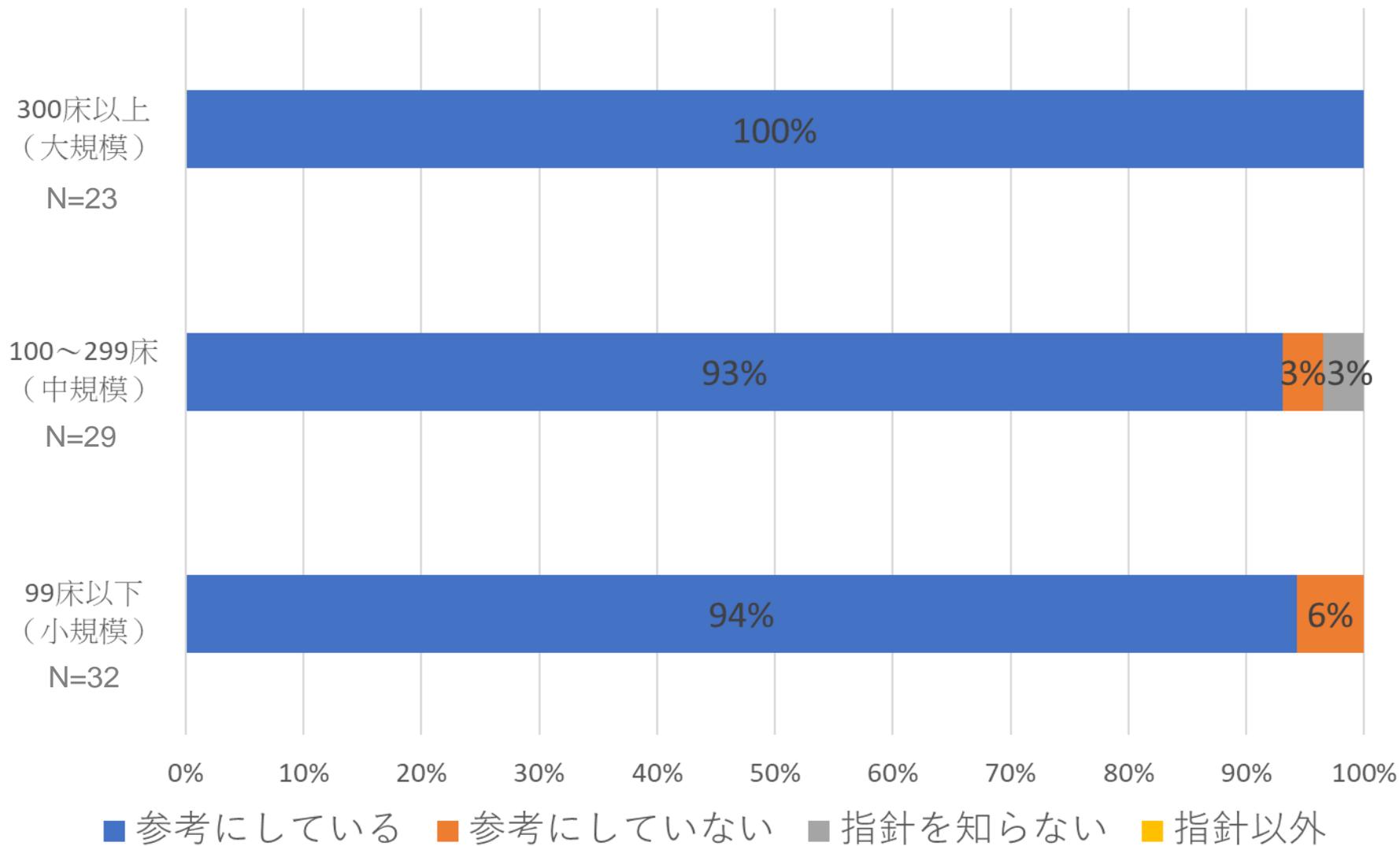
病床数	施設数	規模	施設数
0	6	小規模	35
1～19	7		
20～99	22		
100～199	21	中規模	29
200～299	8		
300～499	21	大規模	23
500以上	2		
合計	87	合計	87

調査対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日

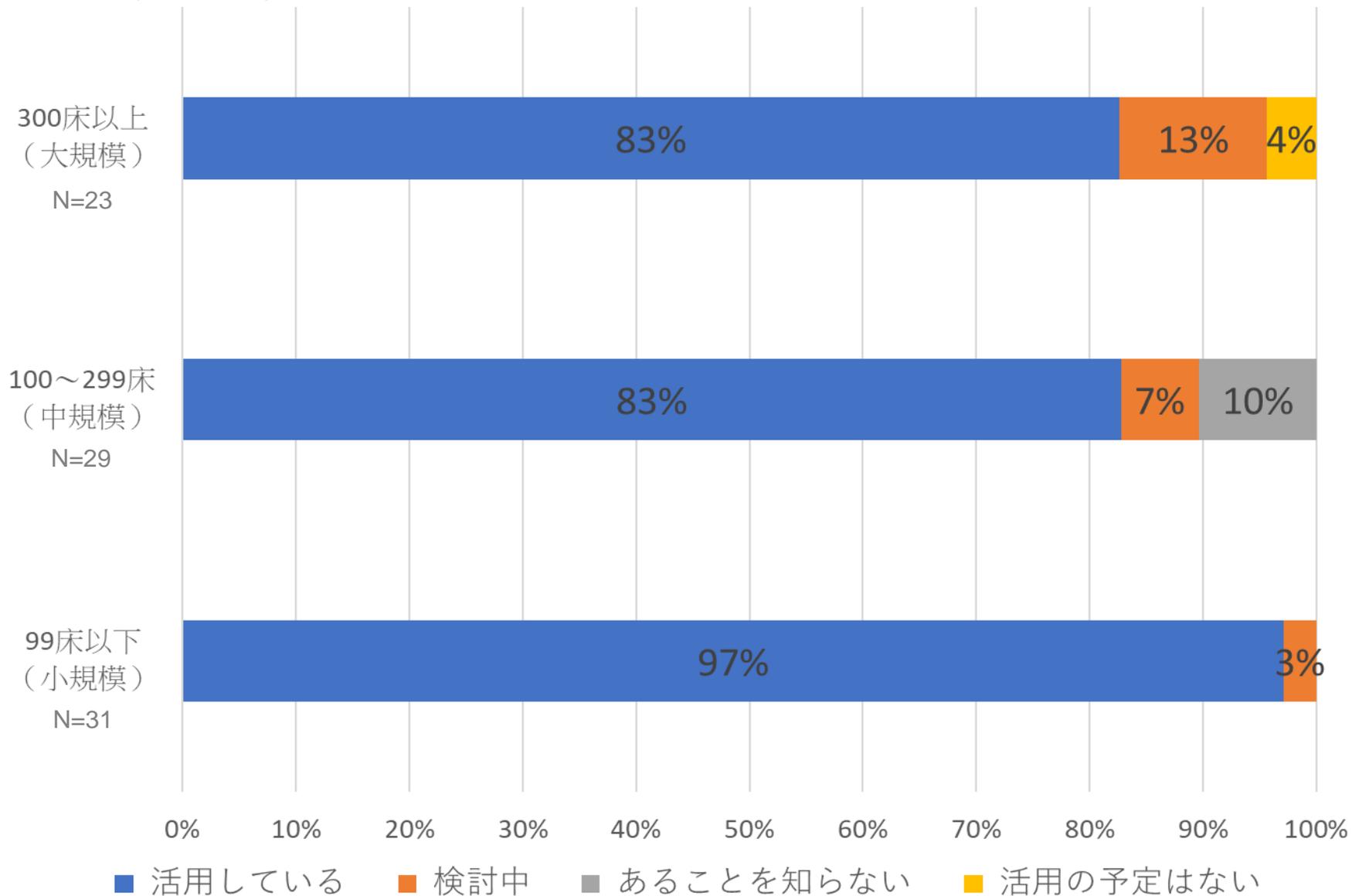
回答医療機関の内訳



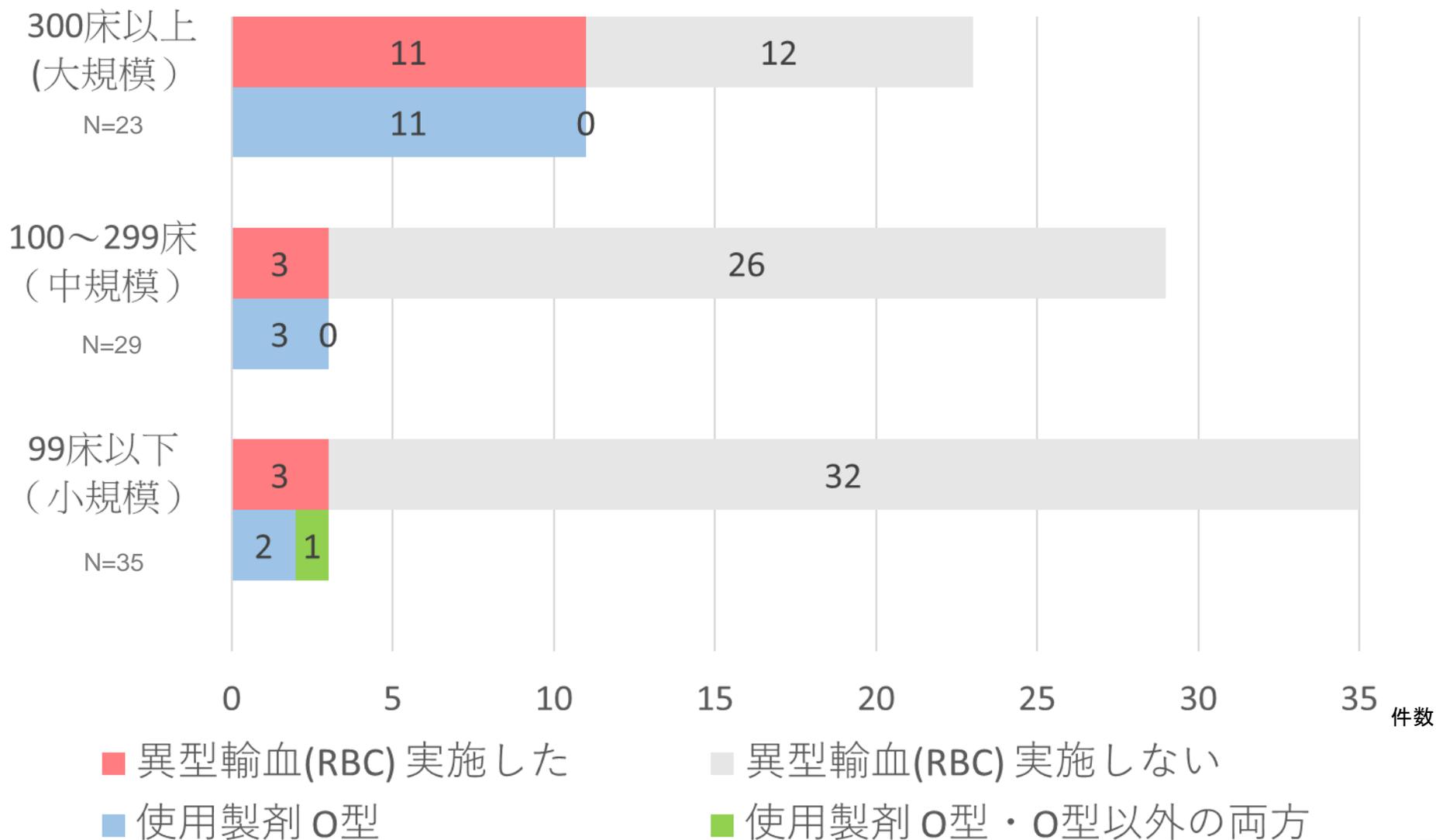
Q1. 厚生労働省の 「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」について



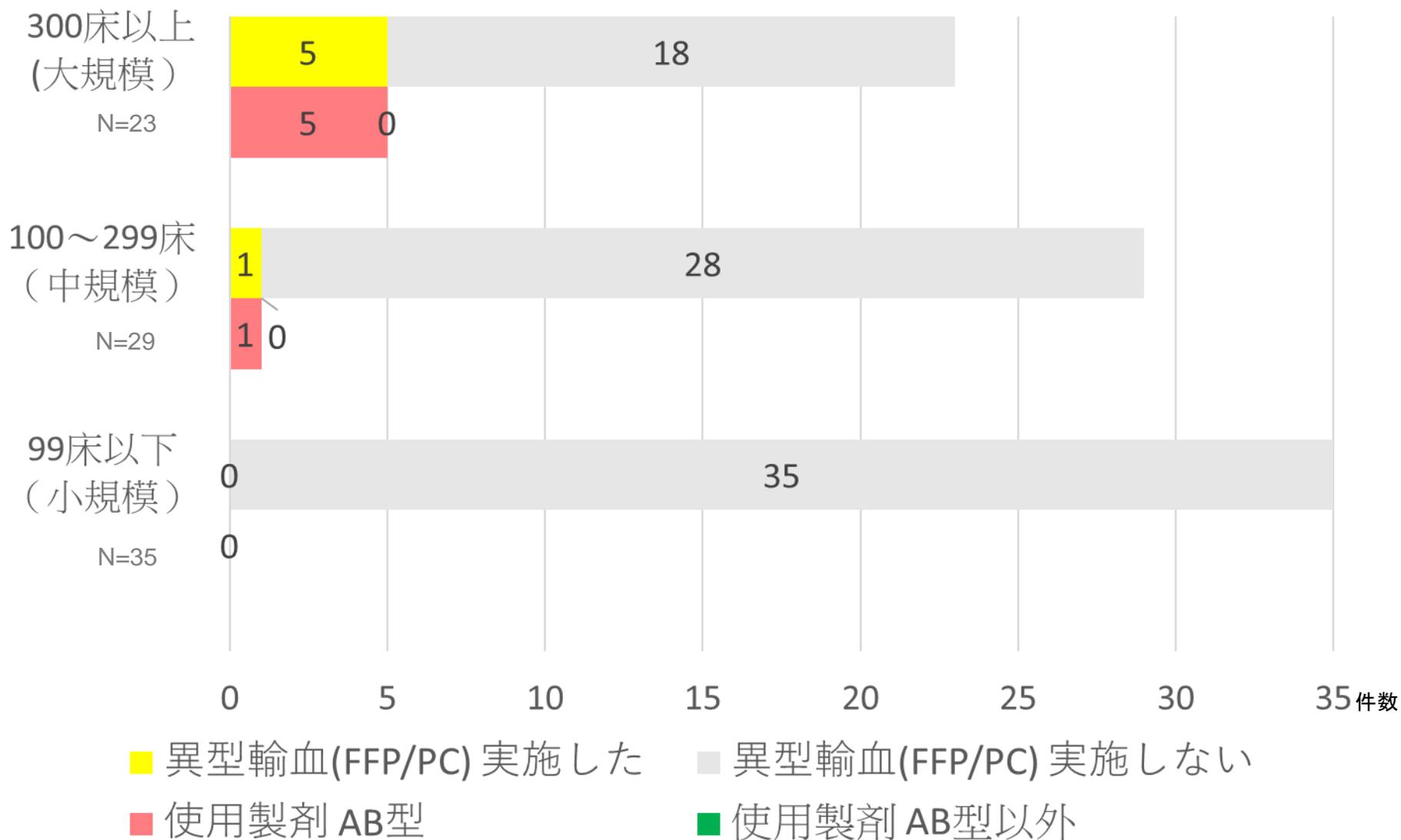
Q2.「長野県輸血療法マニュアル」の活用について



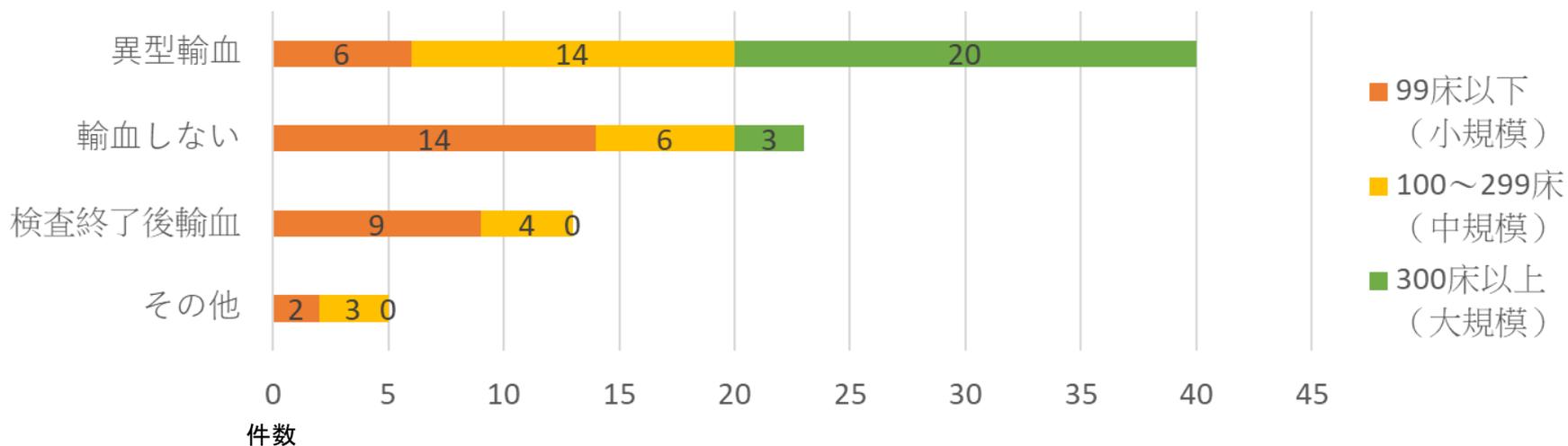
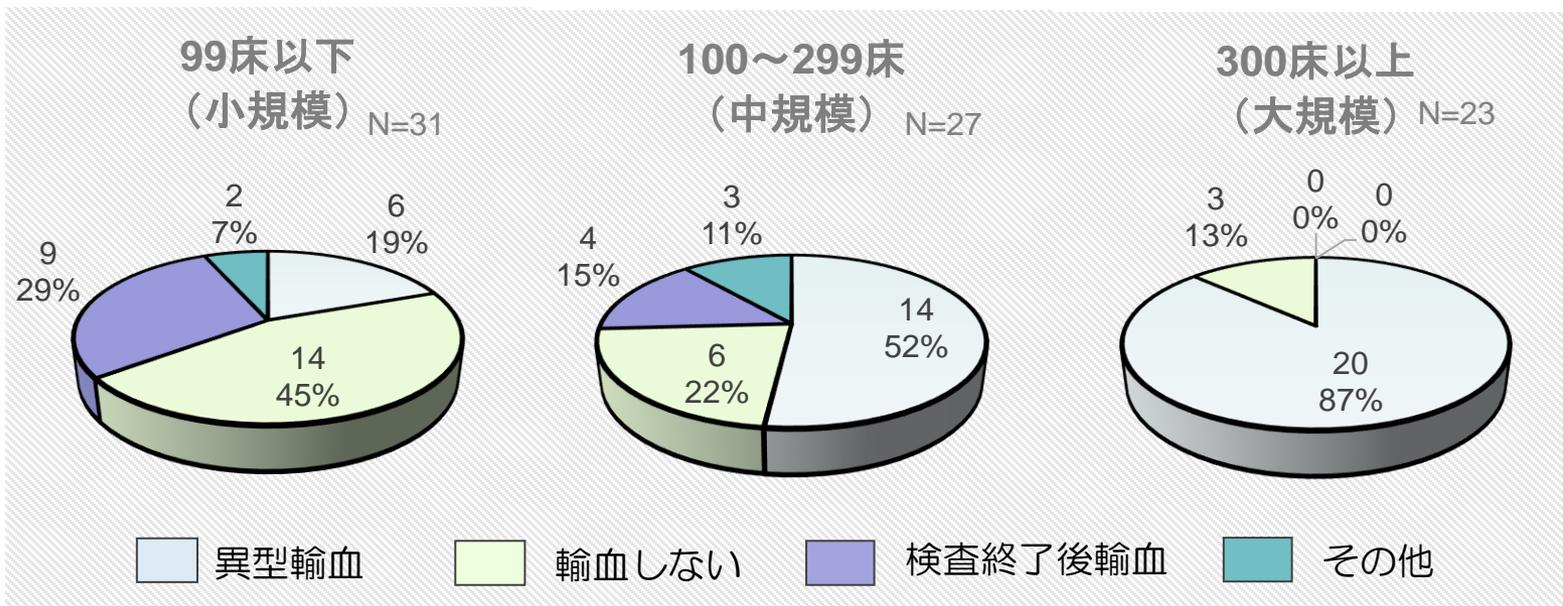
Q3.緊急時、異型輸血の実施状況について(赤血球製剤)



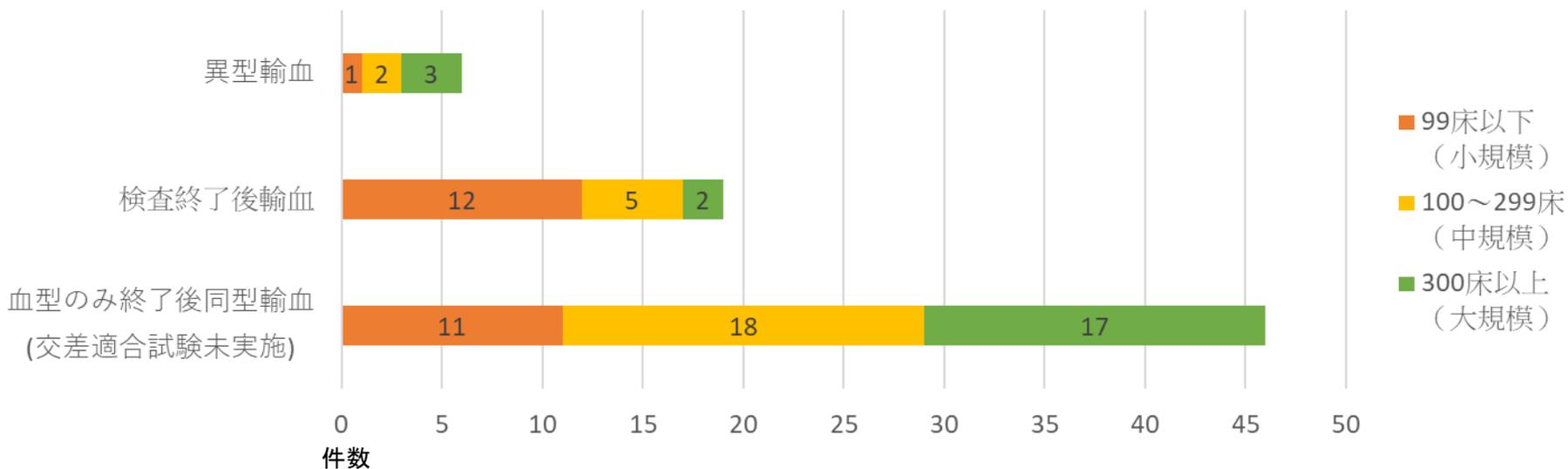
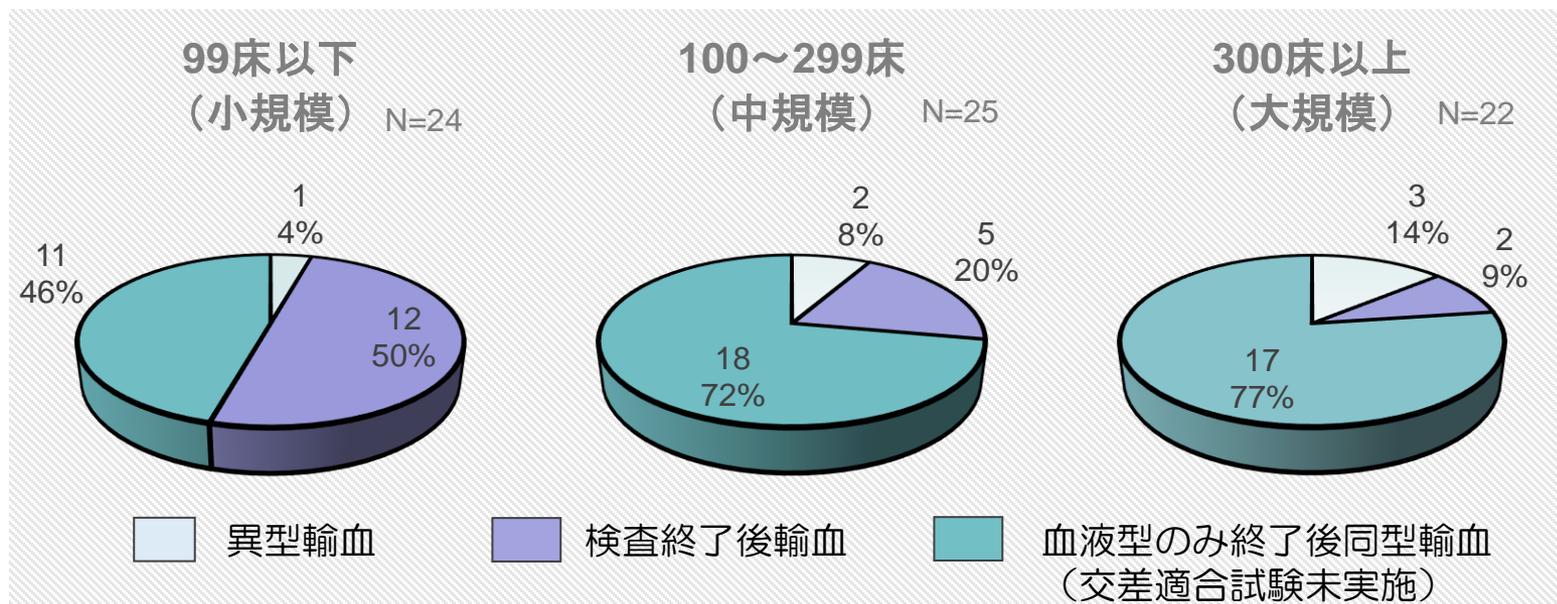
Q3.緊急時、異型輸血の実施状況について(血漿・血小板製剤)



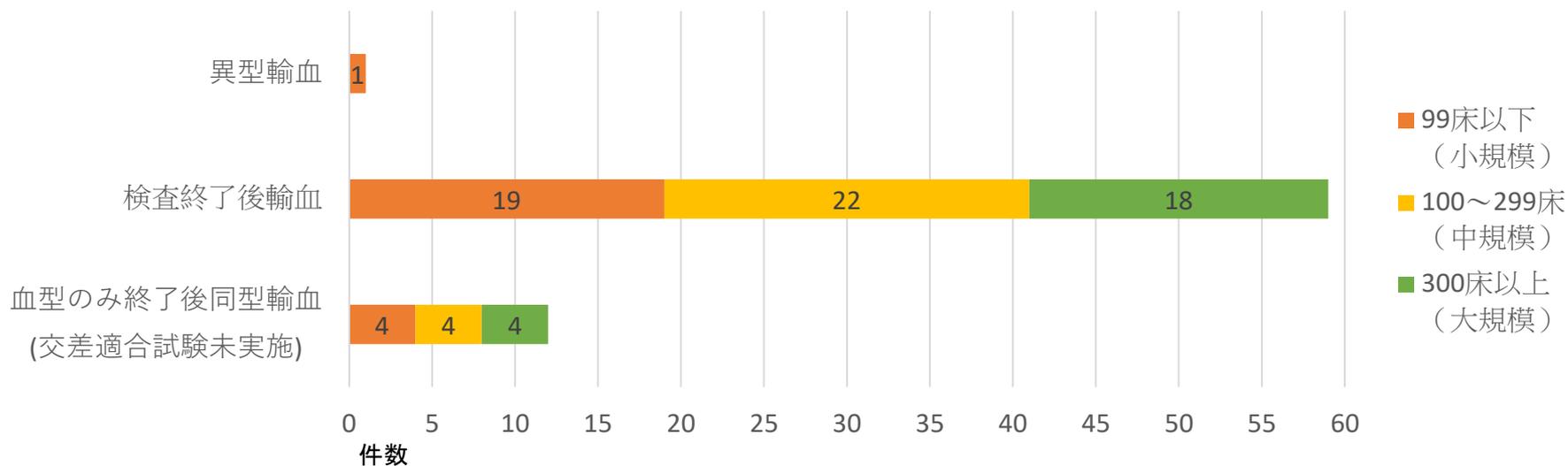
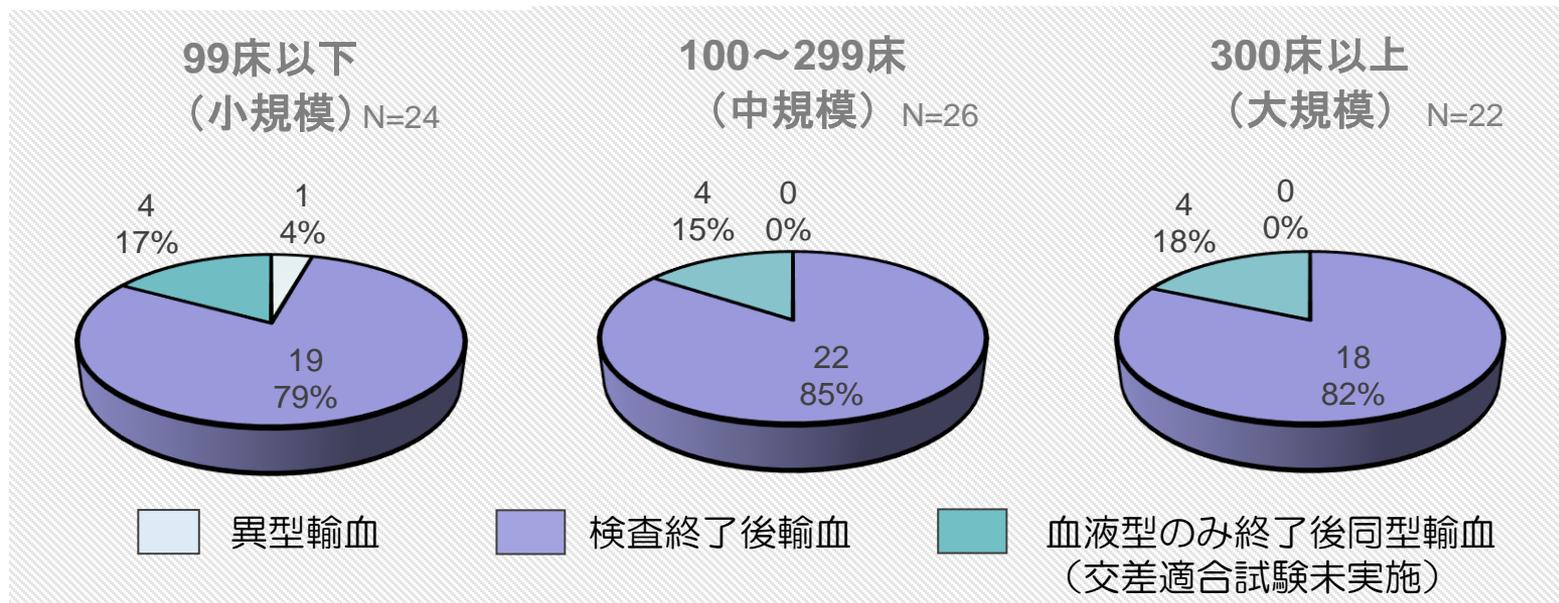
Q4.緊急輸血を直ちに開始する場合(血液型・交差適合試験ができない)の対応



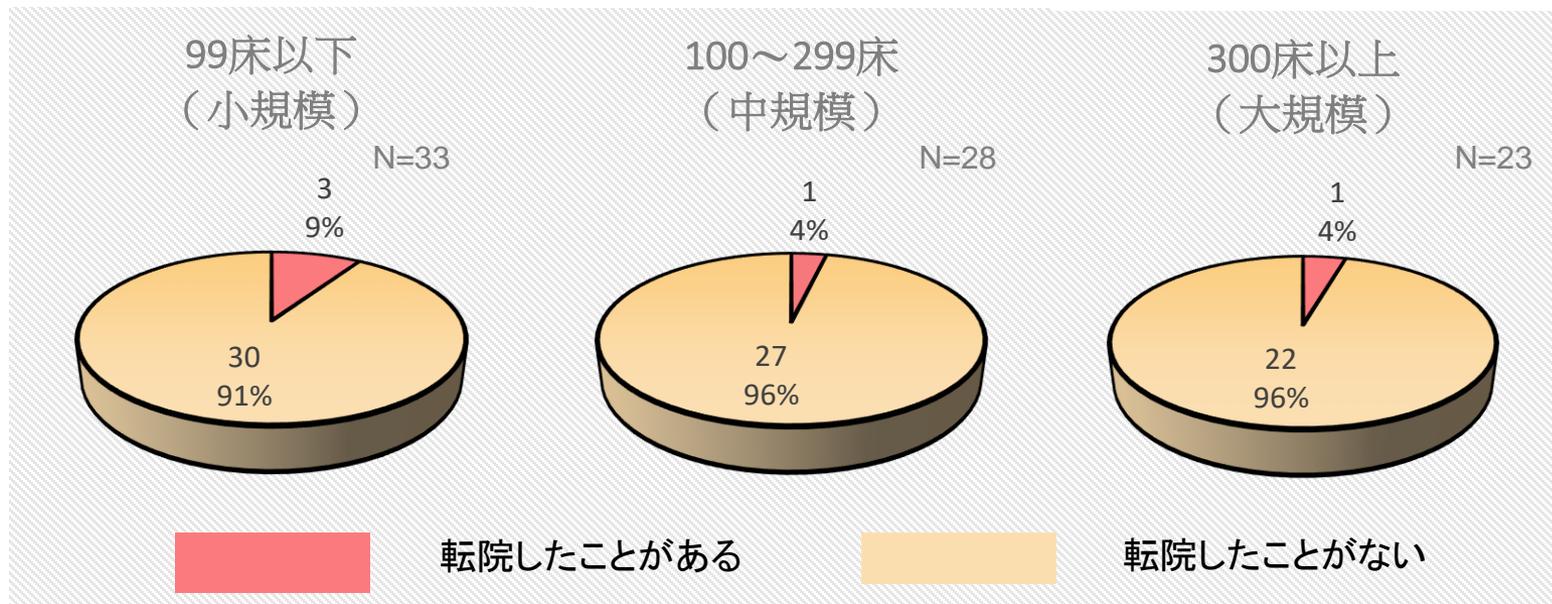
Q5.緊急輸血開始までに10～20分程度待てる場合の対応



Q6. 緊急輸血開始までに30分以上待てる場合の対応

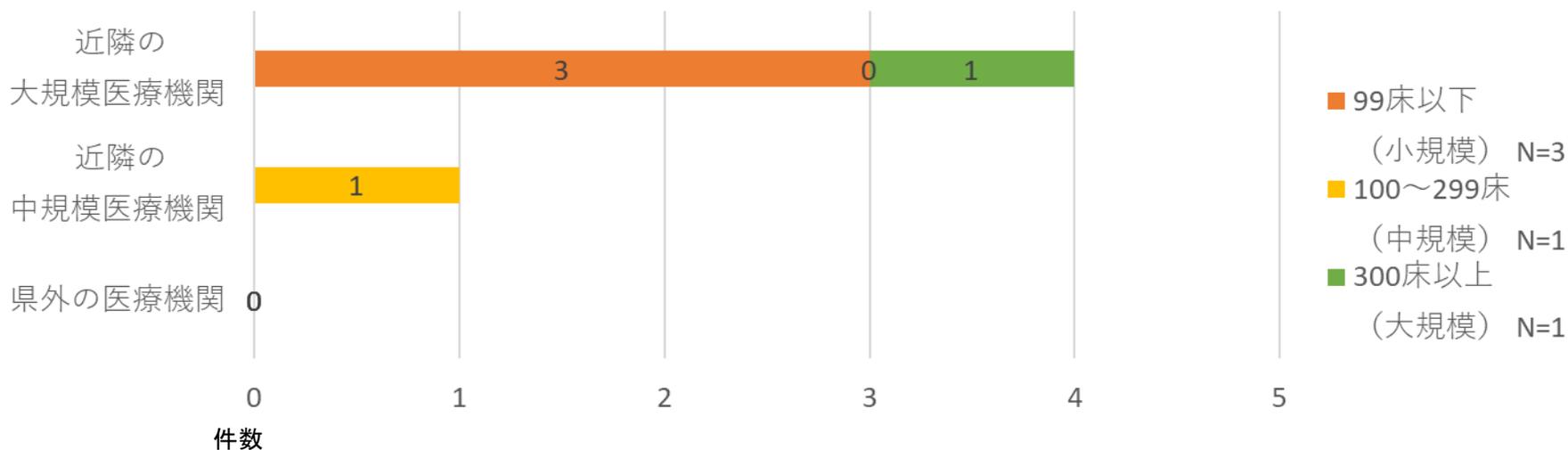


Q7.輸血を目的とした患者の他施設への転院の有無とその理由

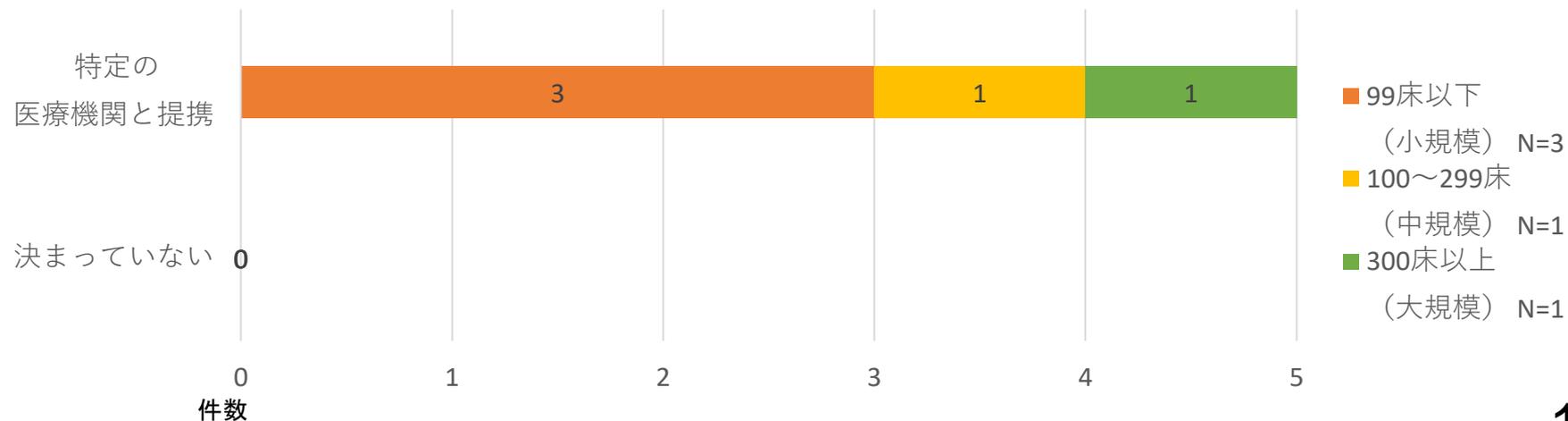


理由	大量輸血のため	院内備蓄ないため
99床以下	2	1
100~299床	0	1
300床以上	0	1

Q8.輸血を目的とした患者の他施設への転院先



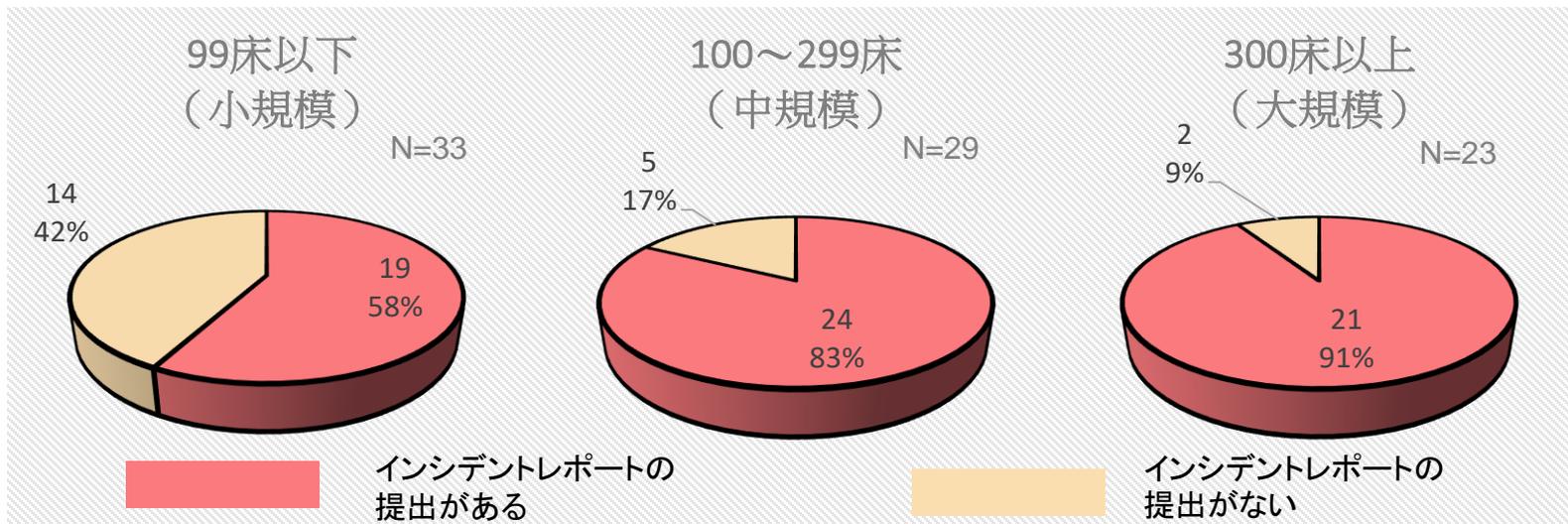
Q9.輸血を目的とした患者の転院先施設との連携状況



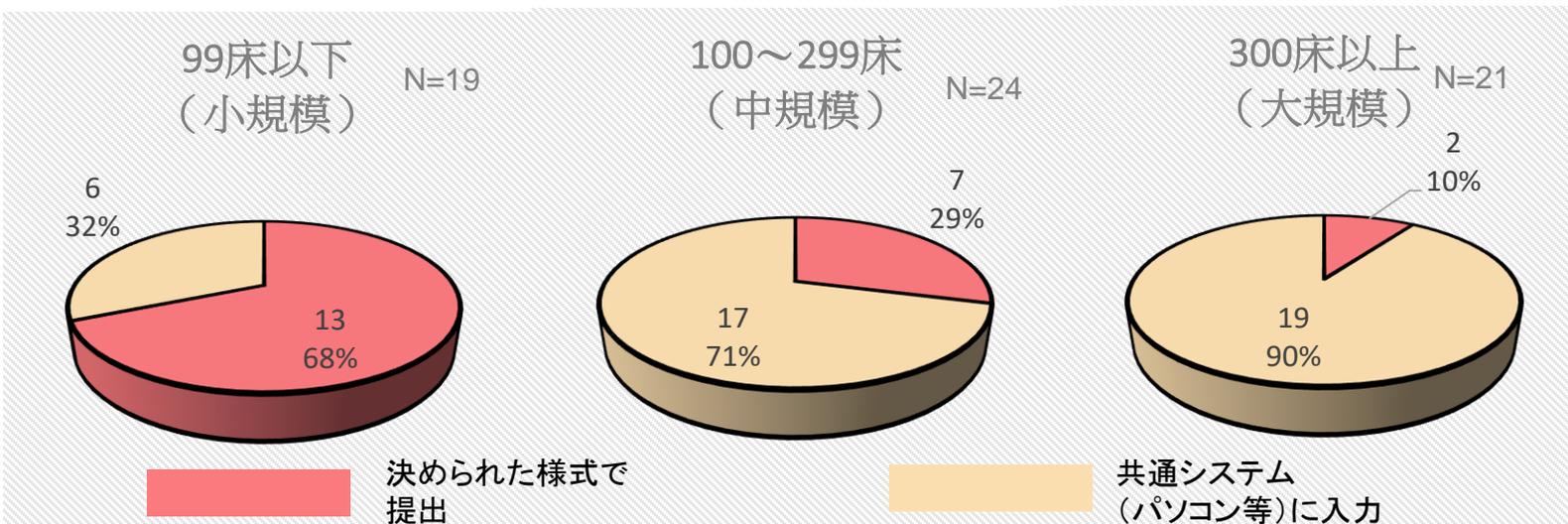
Q10.過去1年間(2022年4月～2023年3月)での病院外輸血の実施施設

	99床以下 (小規模) N=32	100～299床 (中規模) N=29	300床以上 (大規模) N=23
介護施設で実施	0	0	0
在宅で実施	1	0	0
実施していない	31	29	23
今後予定している	0	0	0

Q11.輸血関連インシデントレポートについて

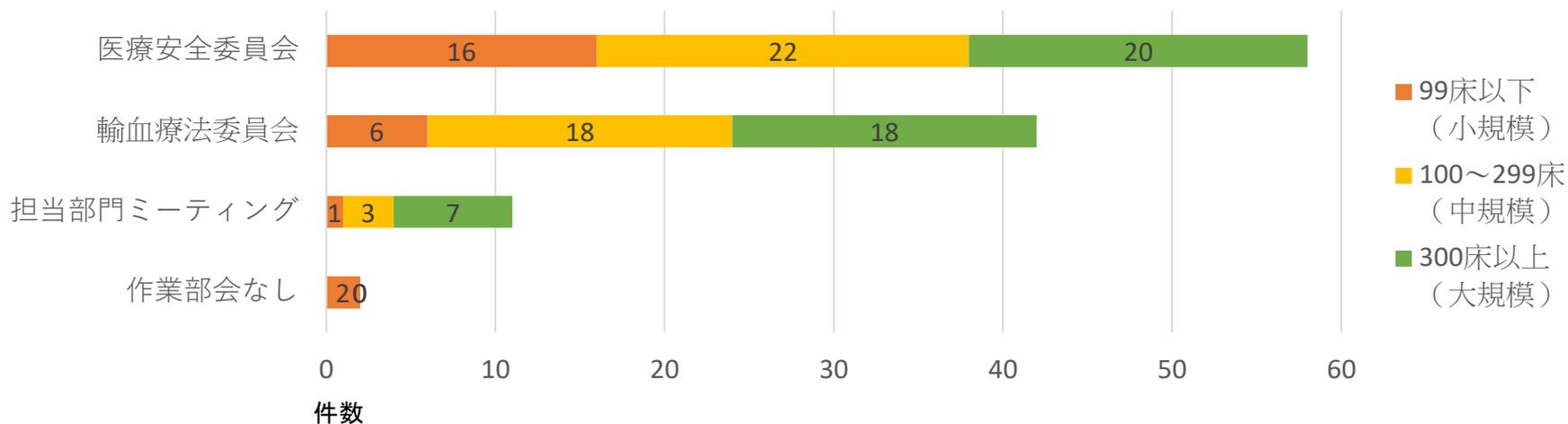
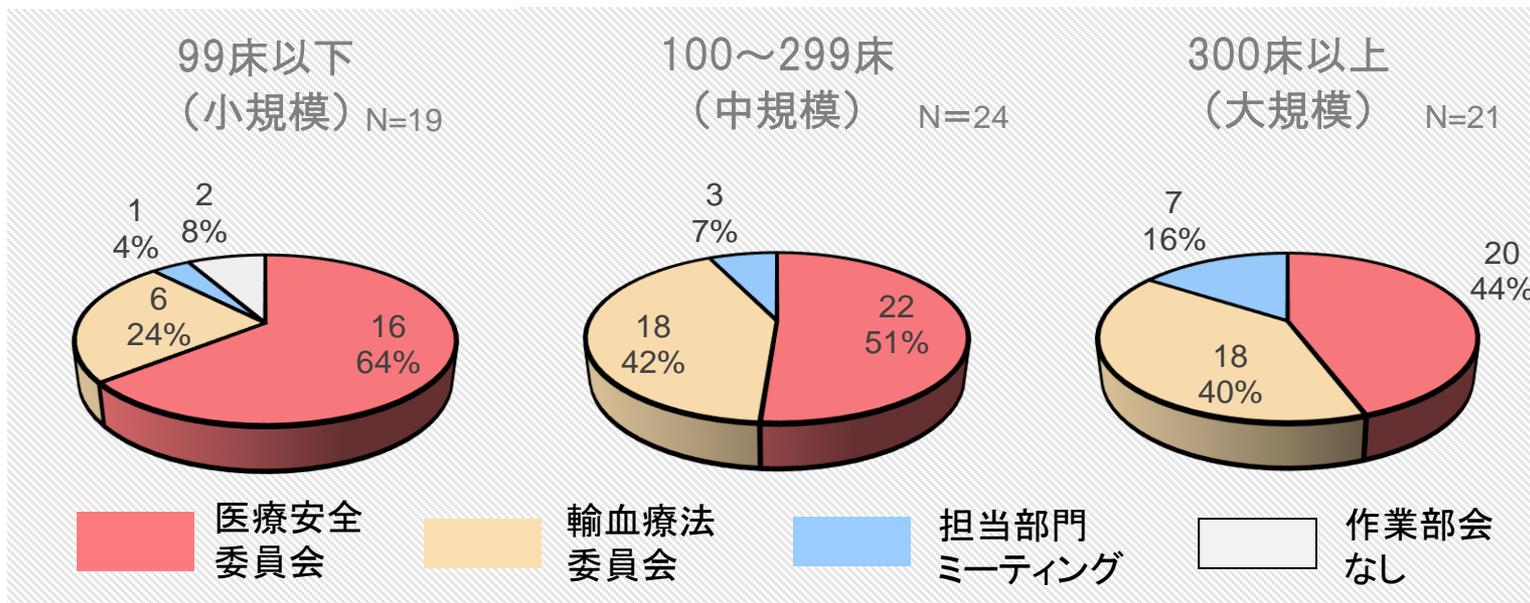


Q12.輸血関連インシデントレポートの提出方法について



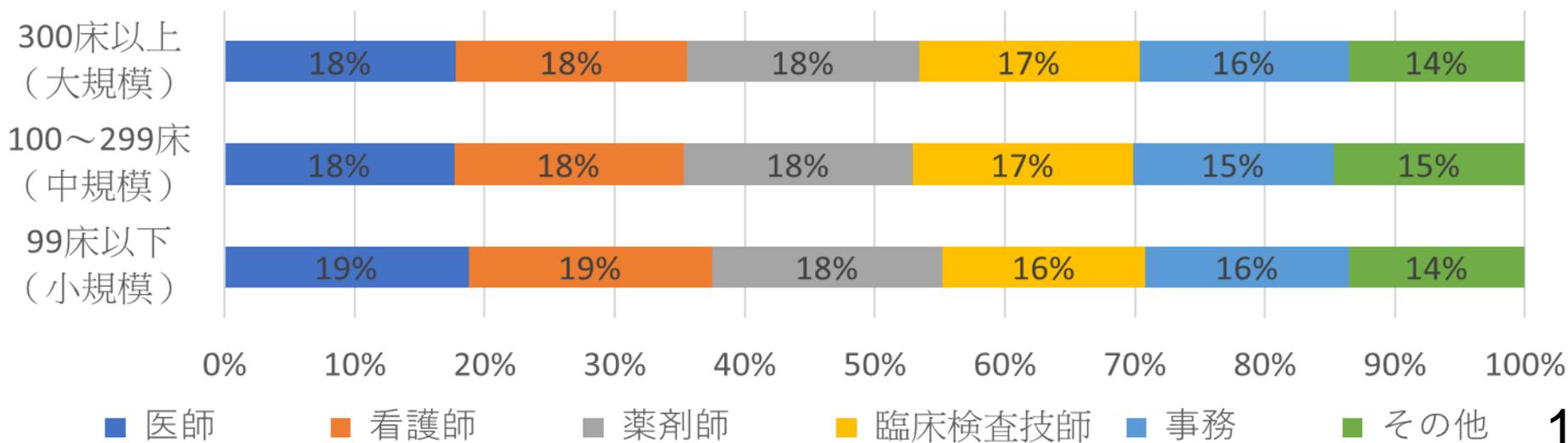
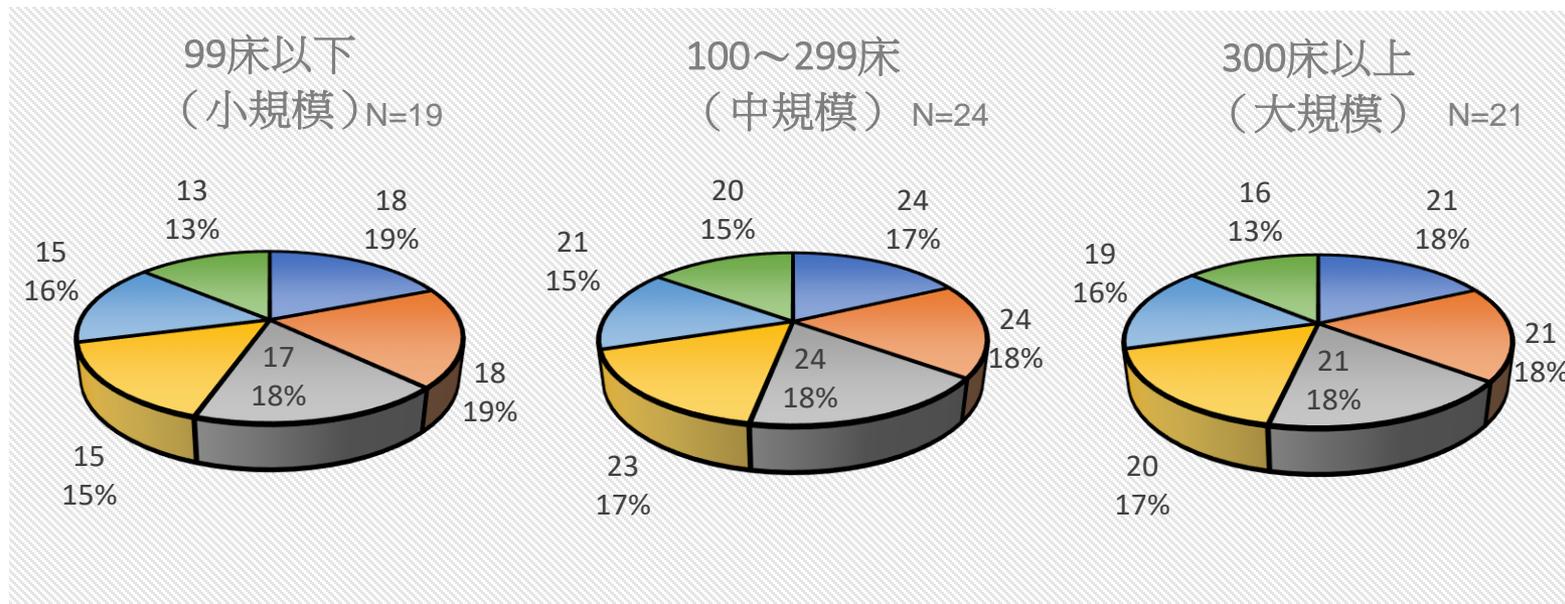
Q13.輸血関連インシデントレポートを分析する作業部会について

複数回答あり

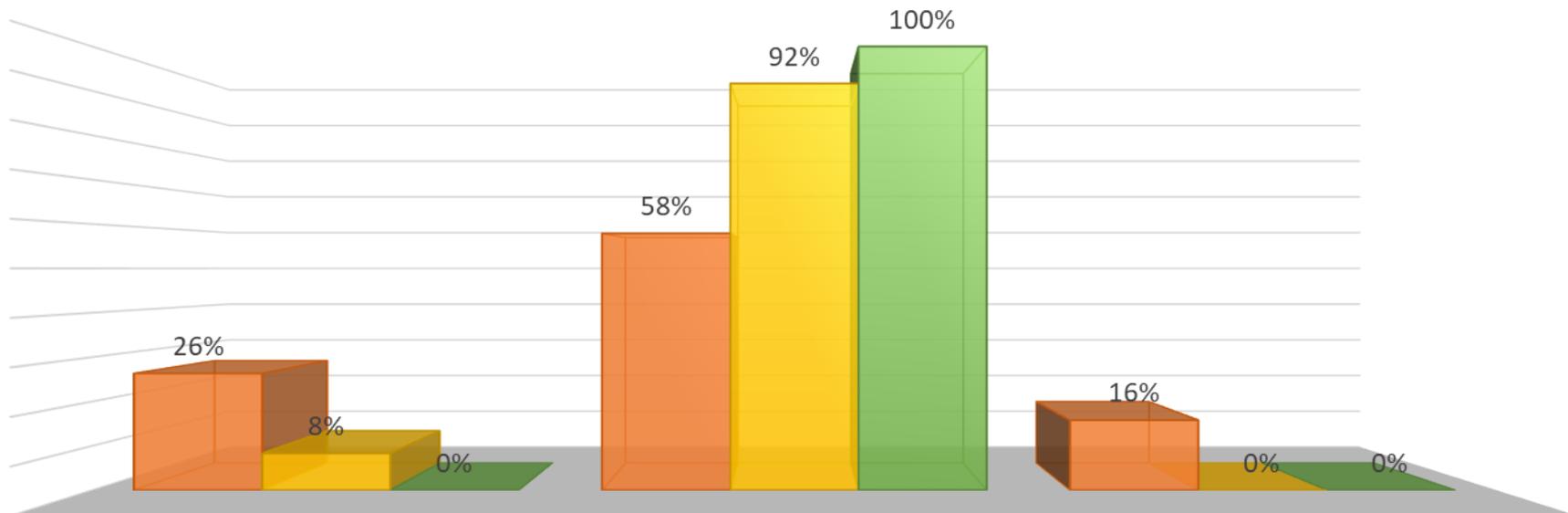


Q14.輸血関連インシデントレポート作業部会のメンバー構成

複数回答あり



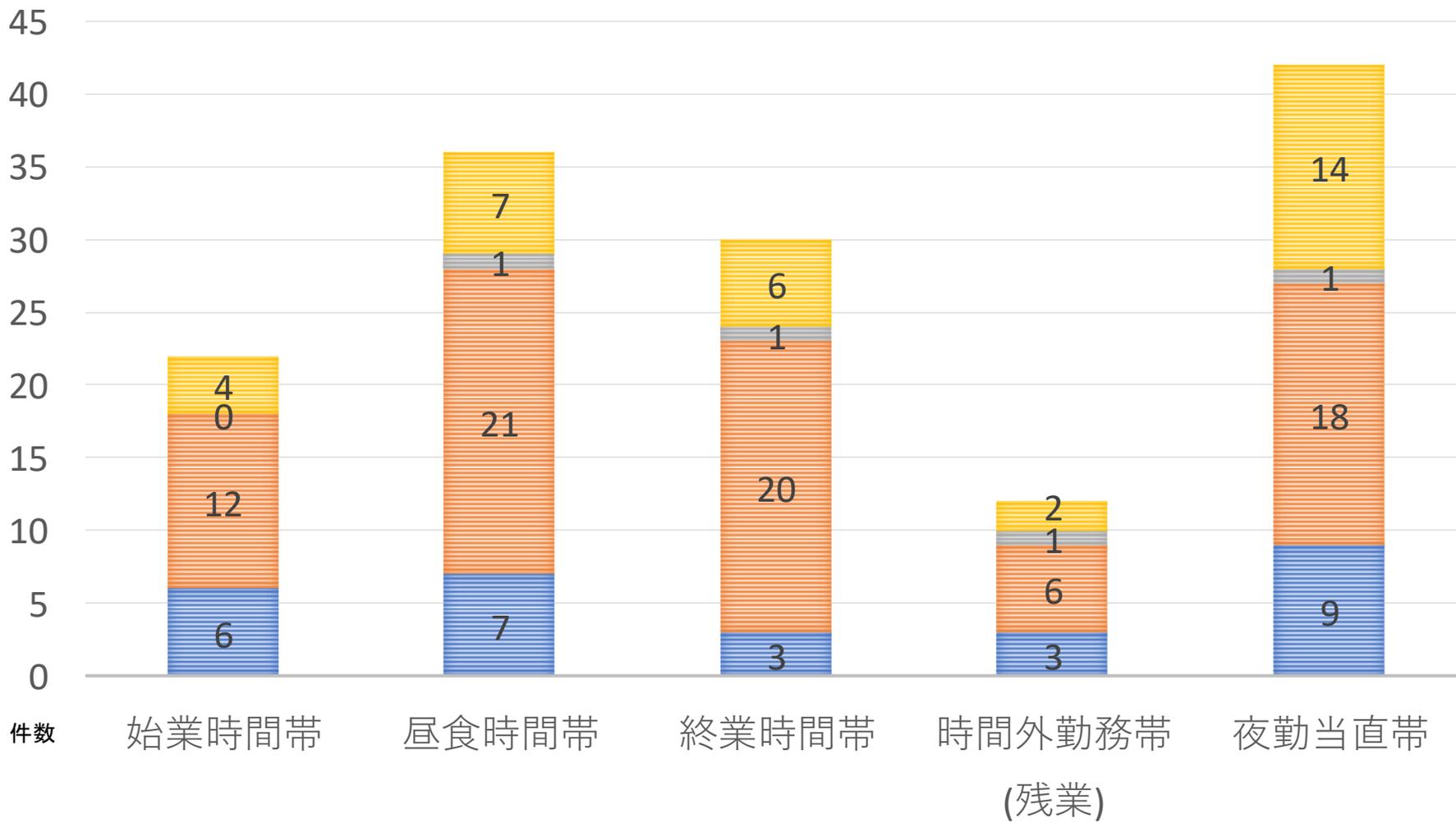
Q15.インシデント事例のレベル分けについて



	アクシデントと インシデント(ヒヤリハット)の 2つに分けている	アクシデント インシデントを レベル分けしている	分けていない
■ 99床以下 (小規模) N=19	26%	58%	16%
■ 100~299床 (中規模) N=24	8%	92%	0%
■ 300床以上 (大規模) N=21	0%	100%	0%

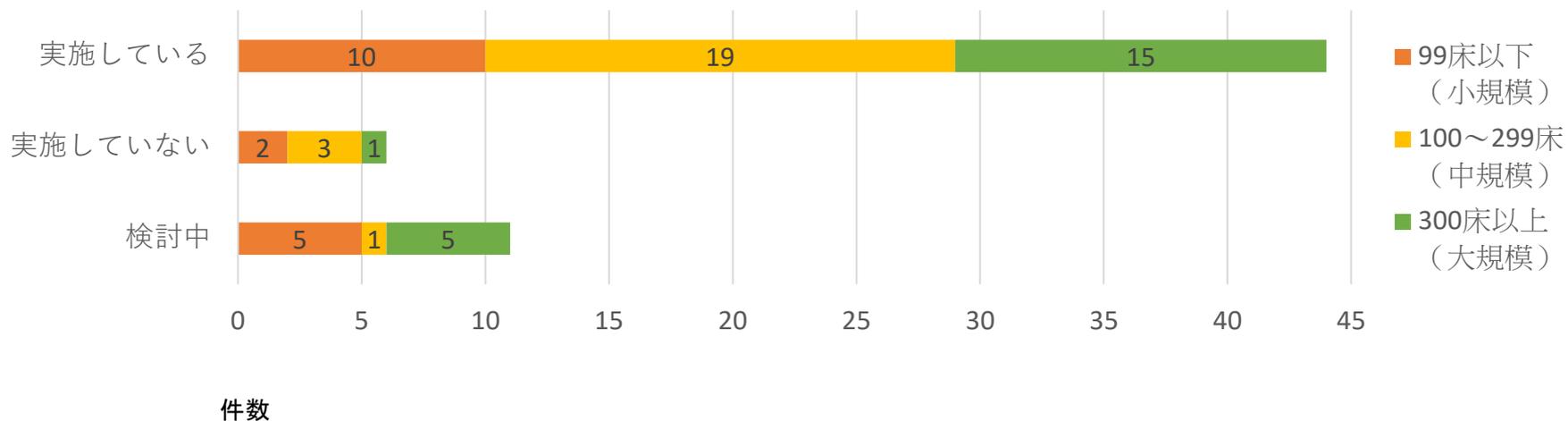
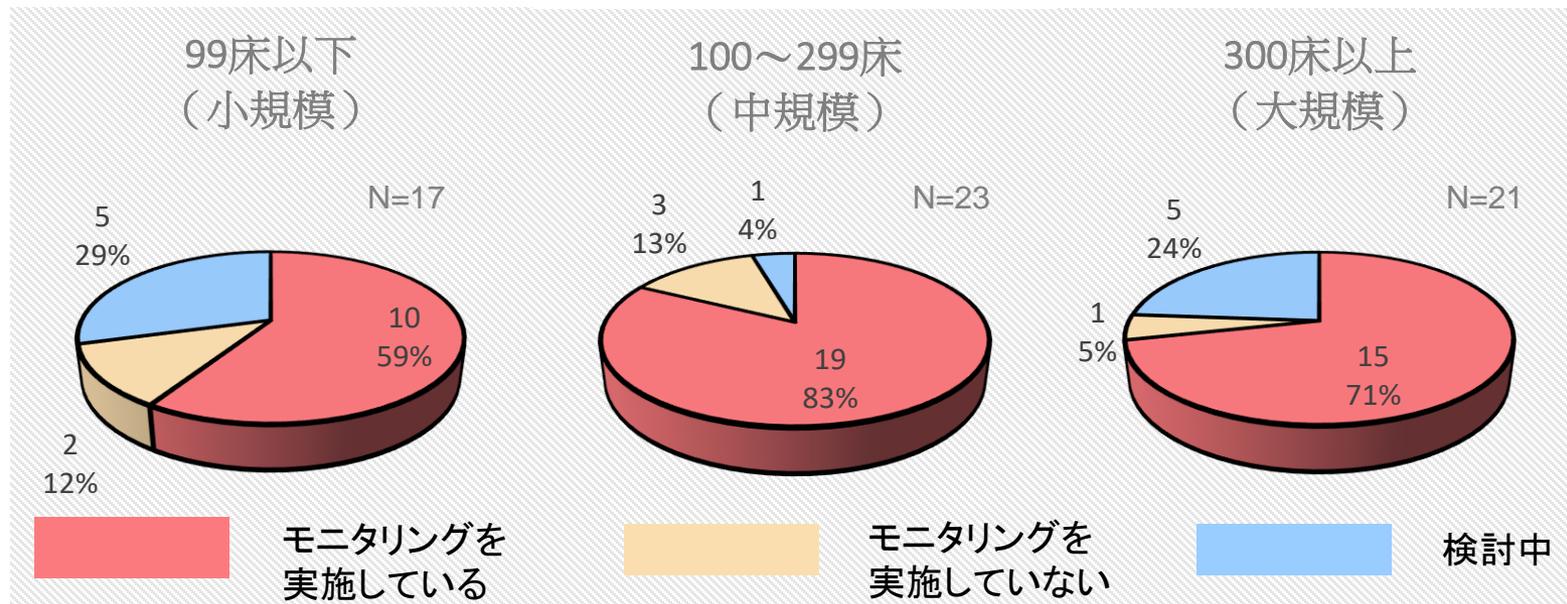
Q16.インシデント事象が多い勤務帯・職種別

複数回答あり

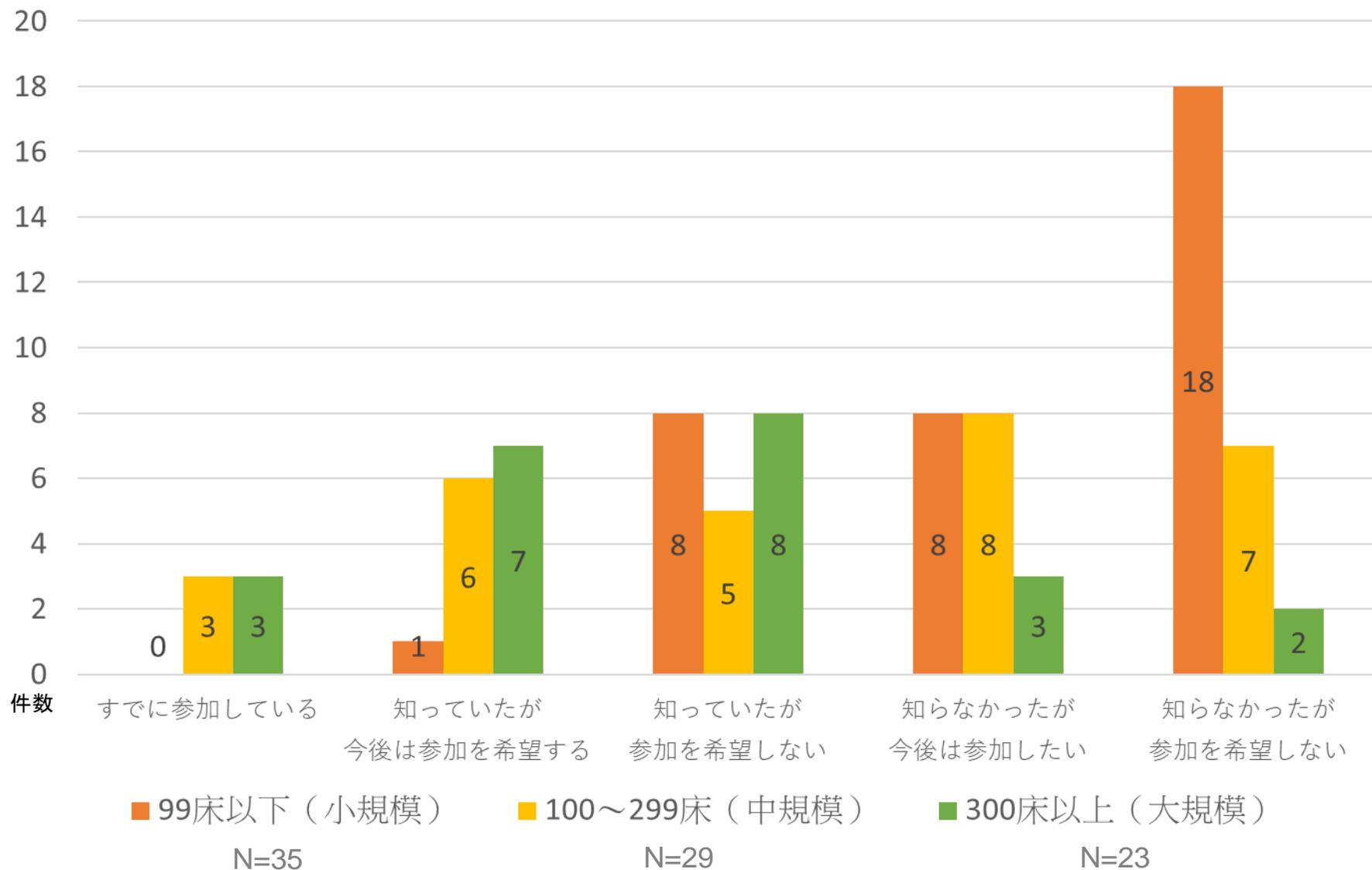


■ 医師 ■ 看護師 ■ 薬剤師 ■ 臨床検査技師

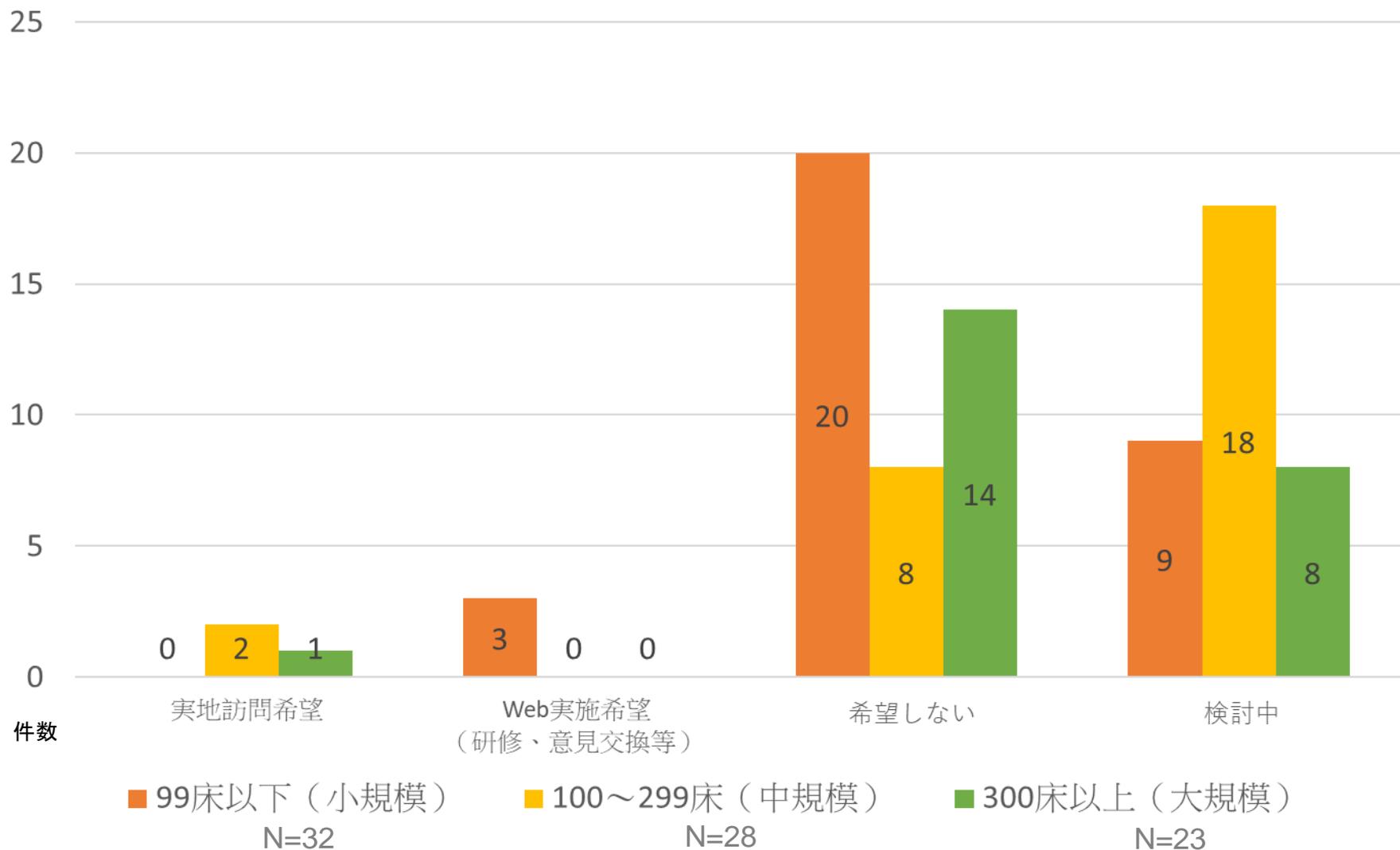
Q17.インシデント事象の分析・再発防止策後のモニタリングについて



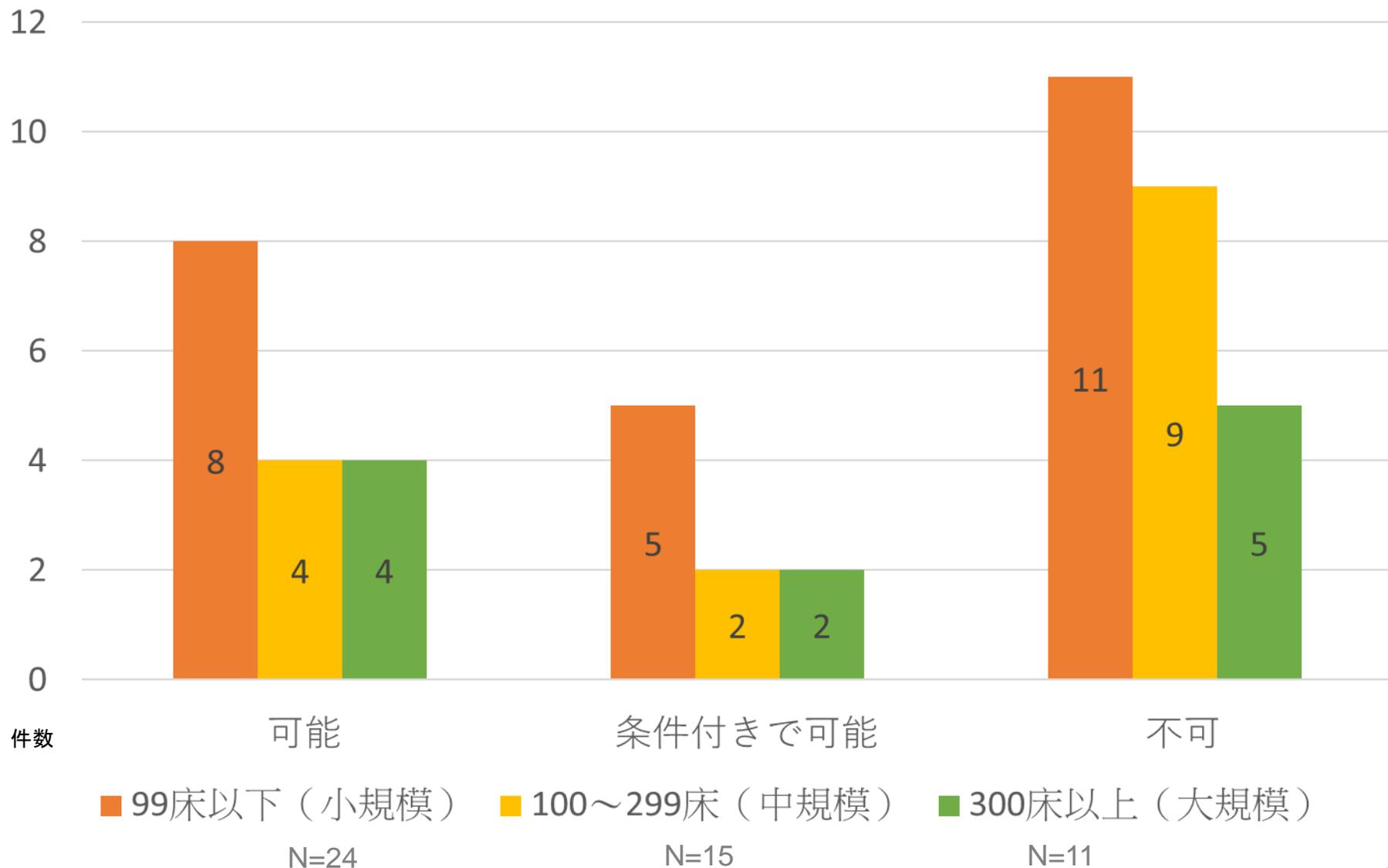
Q18. 輸血療法部会の「輸血関連インシデント解析事業」をご存知でしたか



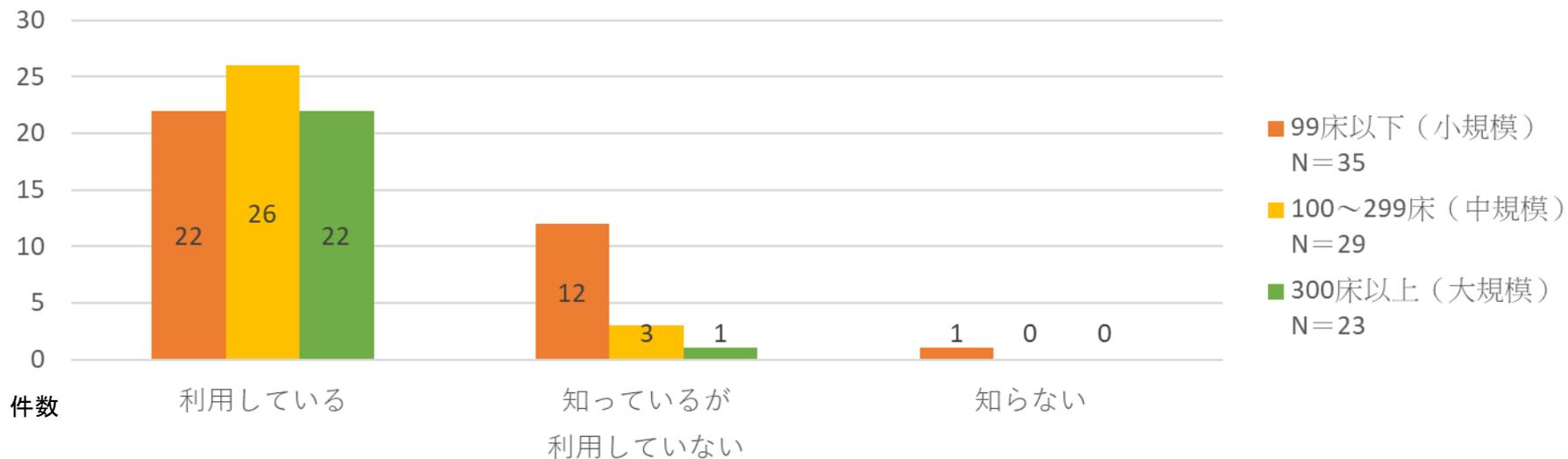
Q19. 輸血療法部会『ASSIST WG』への訪問等を希望しますか



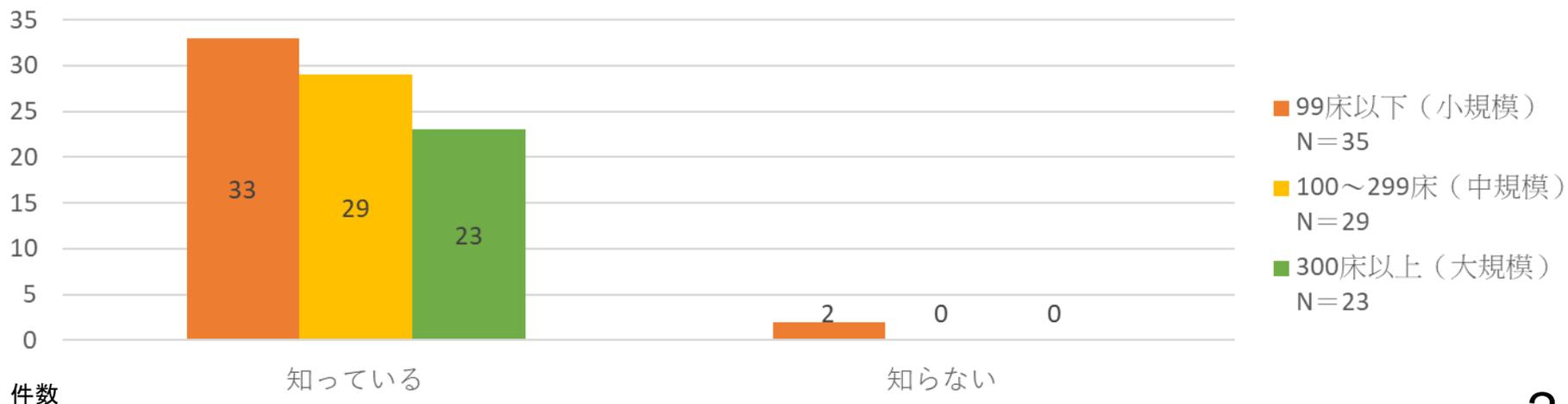
Q20. 血液センター職員による輸血療法委員会への出席について



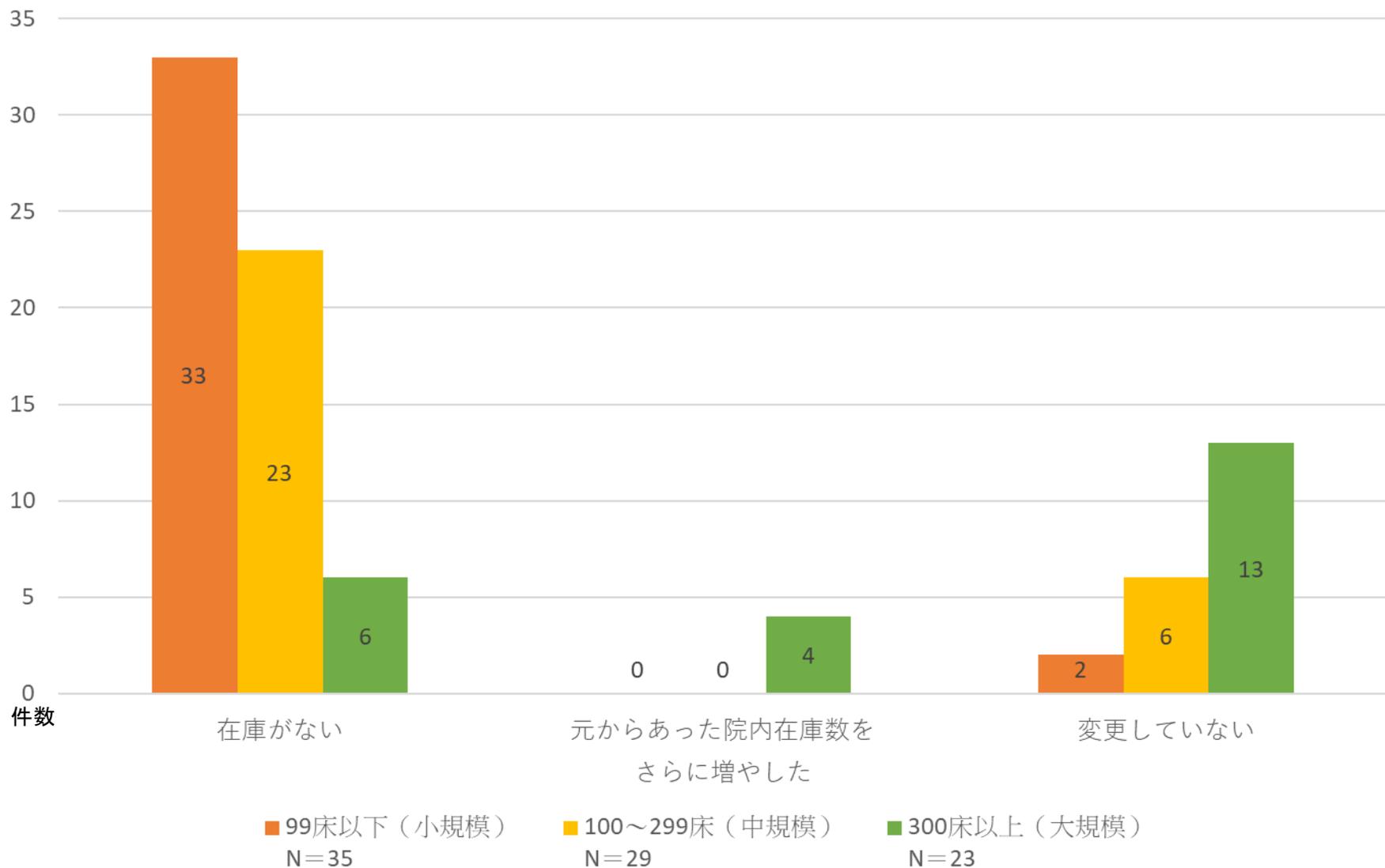
Q21. WEB発注システムを利用していますか



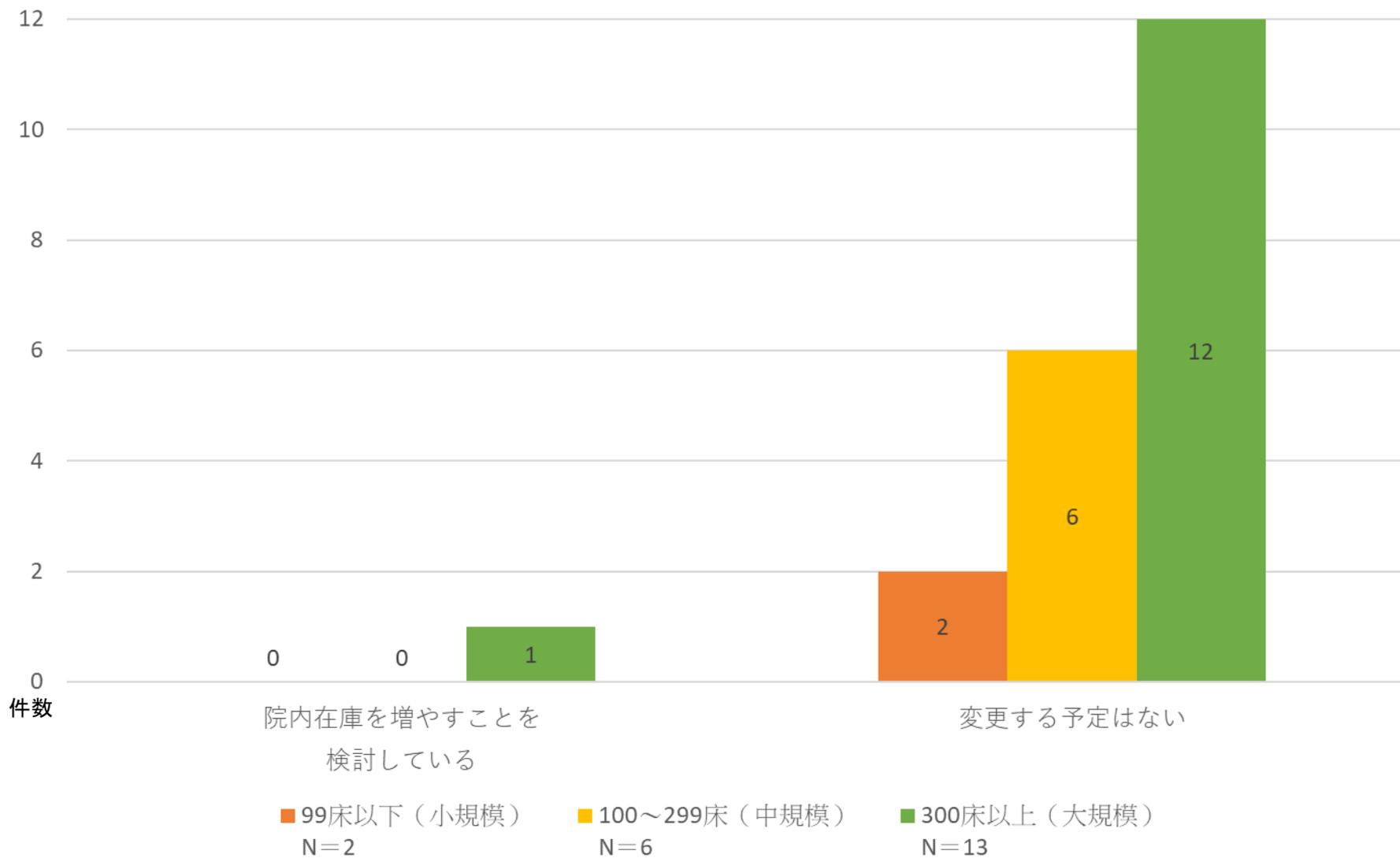
Q22. 2024年4月にWEB発注システムへ完全移行することを知っていますか



Q23. 有効期間延長を理由に赤血球液製剤の院内在庫数の変更をしましたか



Q24. 「変更していない」と回答した施設で院内在庫数を変更する予定はありますか



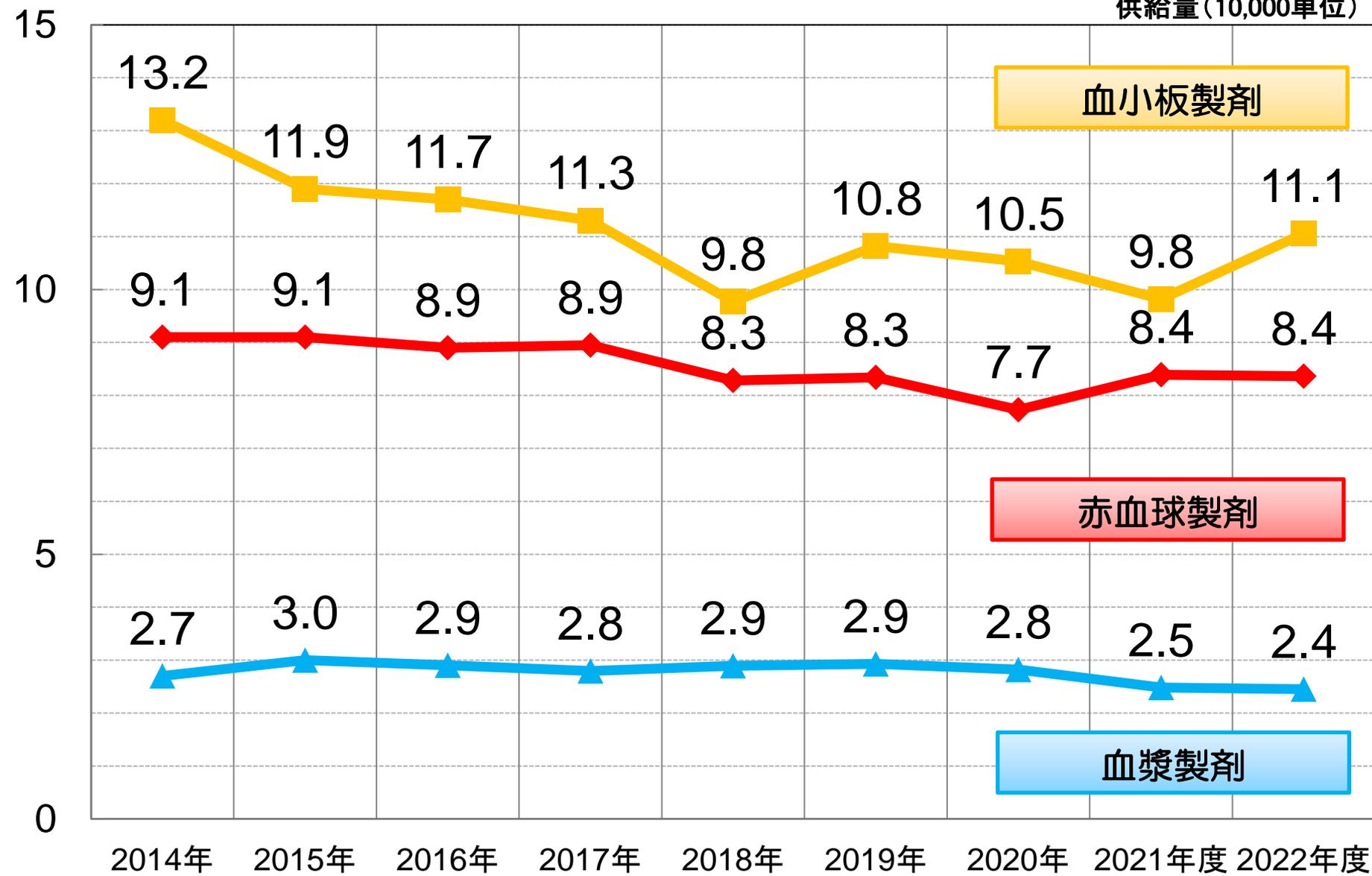
血液製剤の使用状況について

回答施設数	
大規模施設	18施設
中規模施設	24施設
小規模施設	27施設
(うち使用実績なし	2施設)

輸血用血液製剤の供給数の推移について

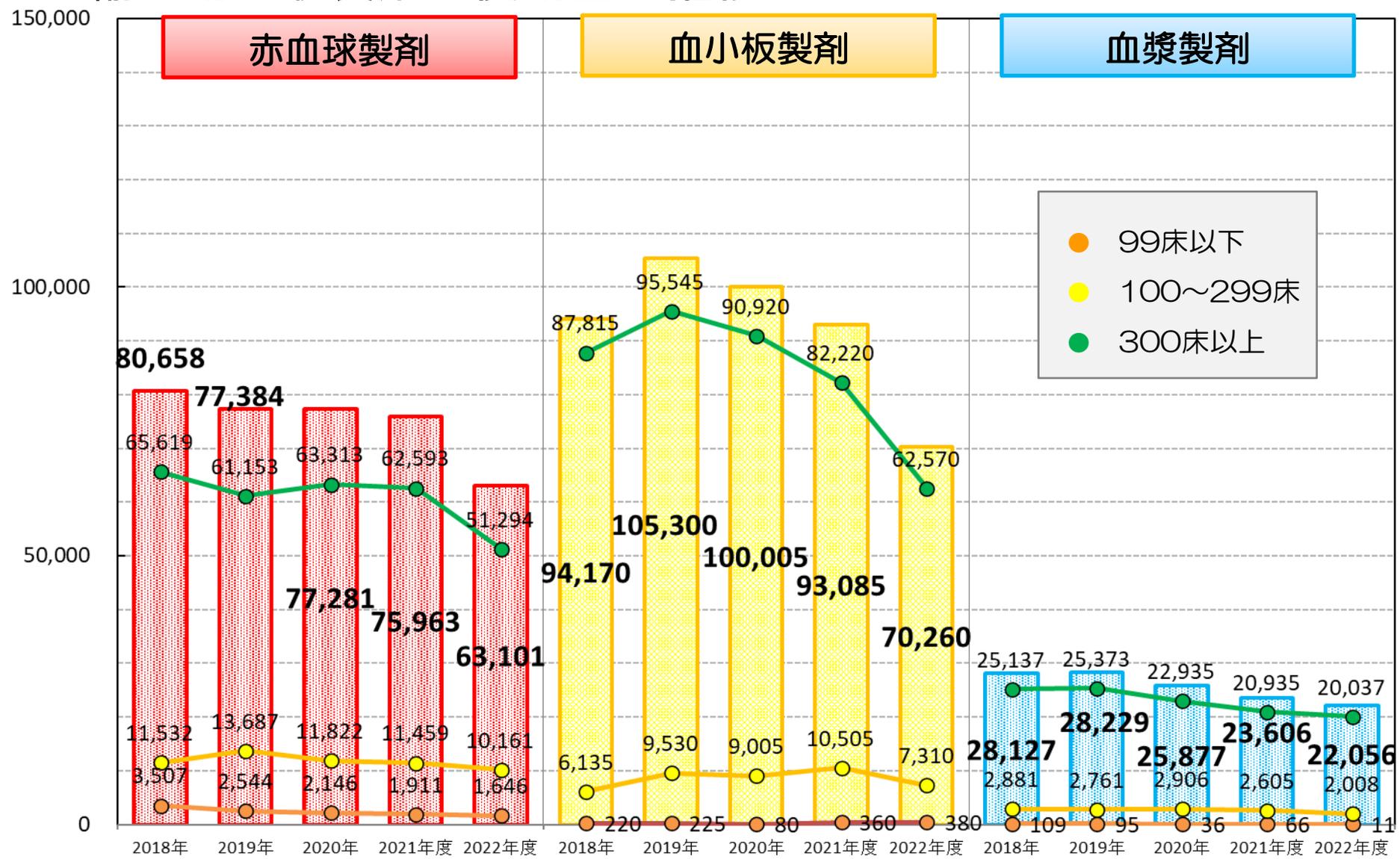
「血液事業年度報 令和4年度統計表」より引用

供給量(10,000単位)



輸血用血液製剤の使用量の推移について

使用量(単位)

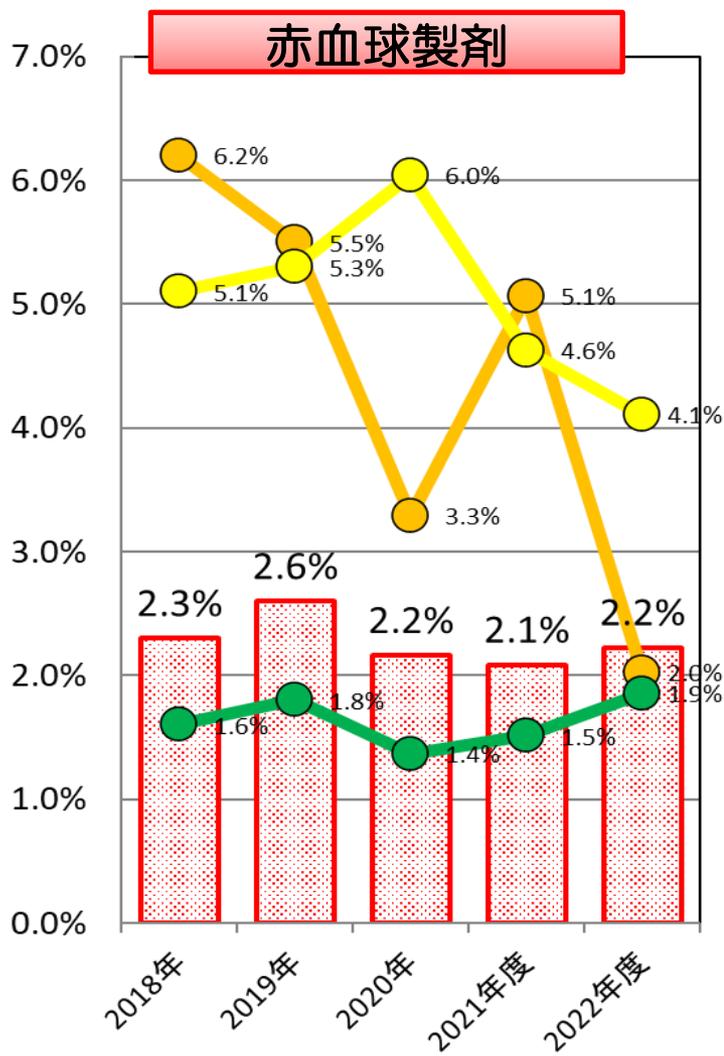


■ 総使用量 (赤血球製剤)

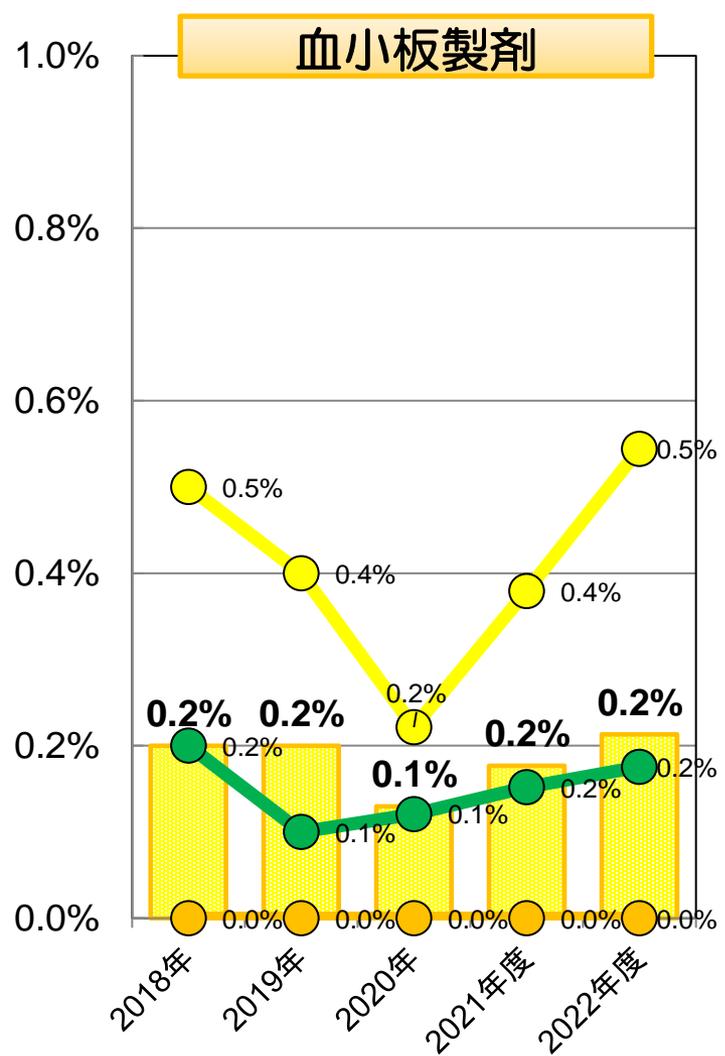
■ 総使用量 (血小板製剤)

■ 総使用量 (血漿製剤)

輸血用血液製剤(RBC/PC)の廃棄率の推移について



■ 全体減損率 (赤血球製剤)



■ 全体減損率 (血小板製剤)

赤血球製剤 廃棄理由

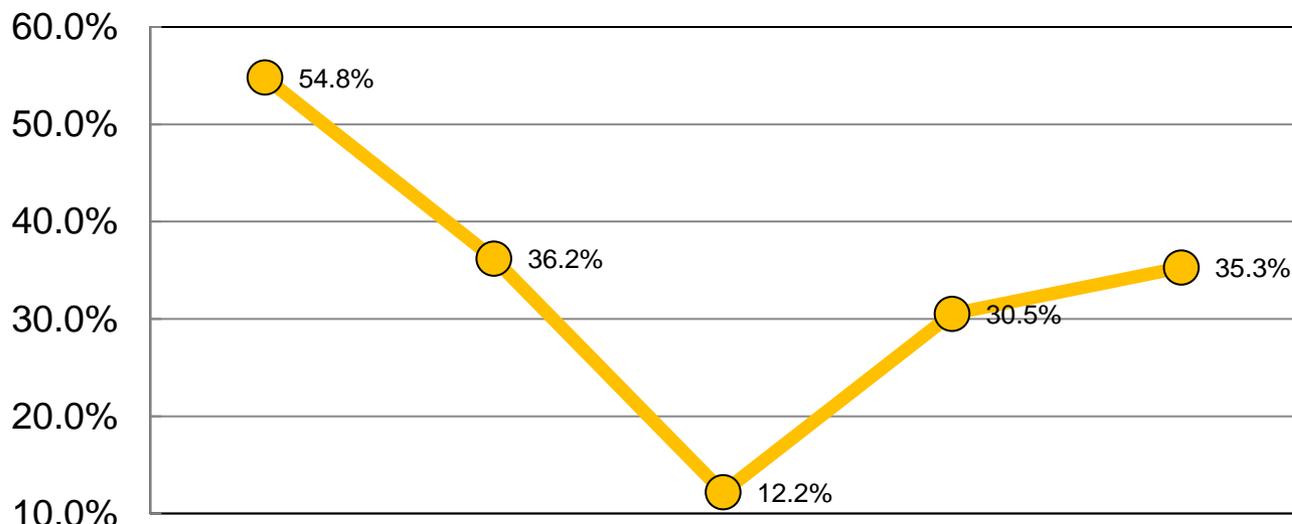
期限切れ
保管不備
患者死亡

血小板製剤 廃棄理由

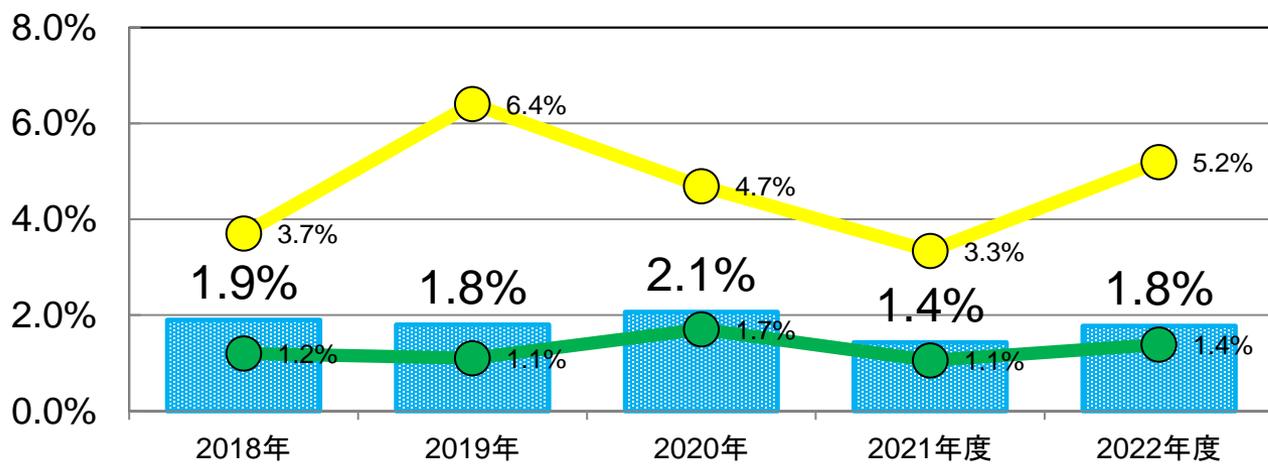
期限切れ
患者転院
患者死亡

- 99床以下
- 100~299床
- 300床以上

輸血用血液製剤(FFP)の廃棄率の推移について



血漿製剤廃棄理由	
期限切れ	
破 損	
融解不備 (温度管理)	
融解後未使用	



■ 全体減損率(血漿製剤)

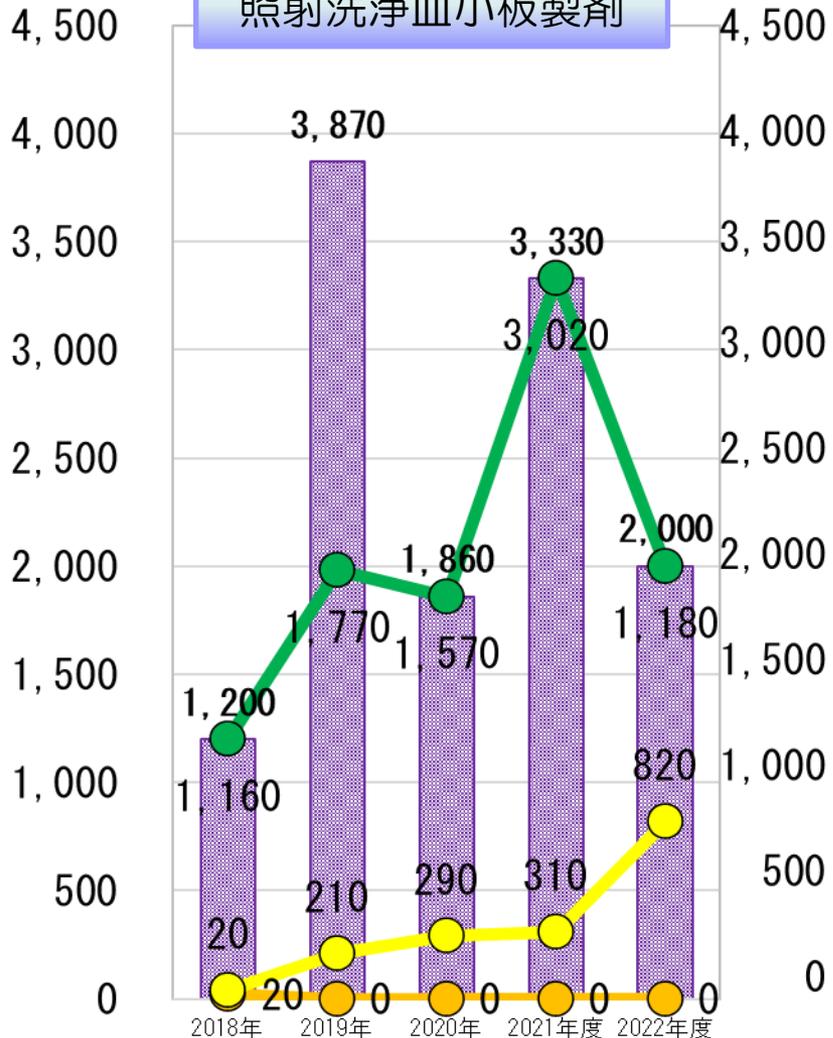
洗浄血小板製剤・その他血液製剤の使用状況について

[単位数]

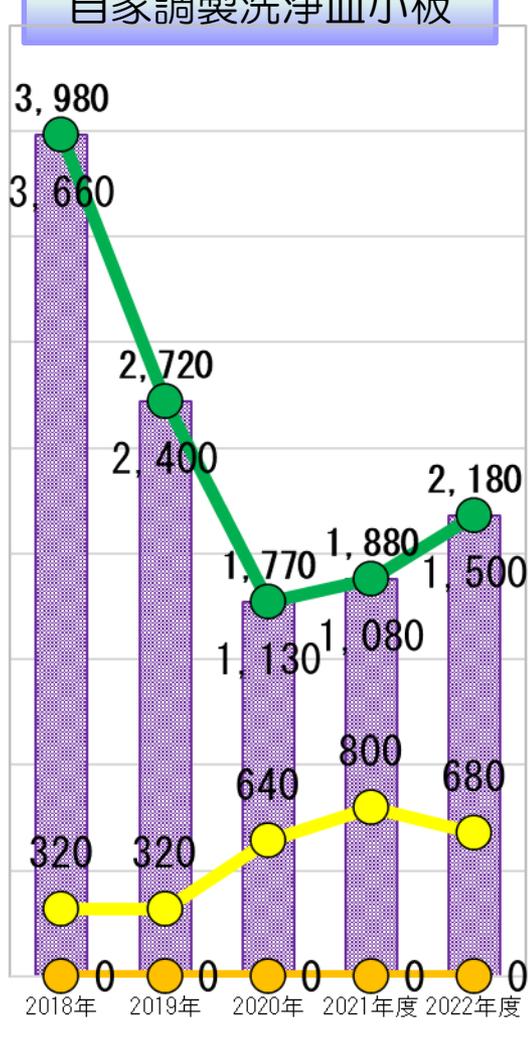
照射洗浄血小板製剤

[単位数]

自家調製洗浄血小板



■ 洗浄血小板製剤全体

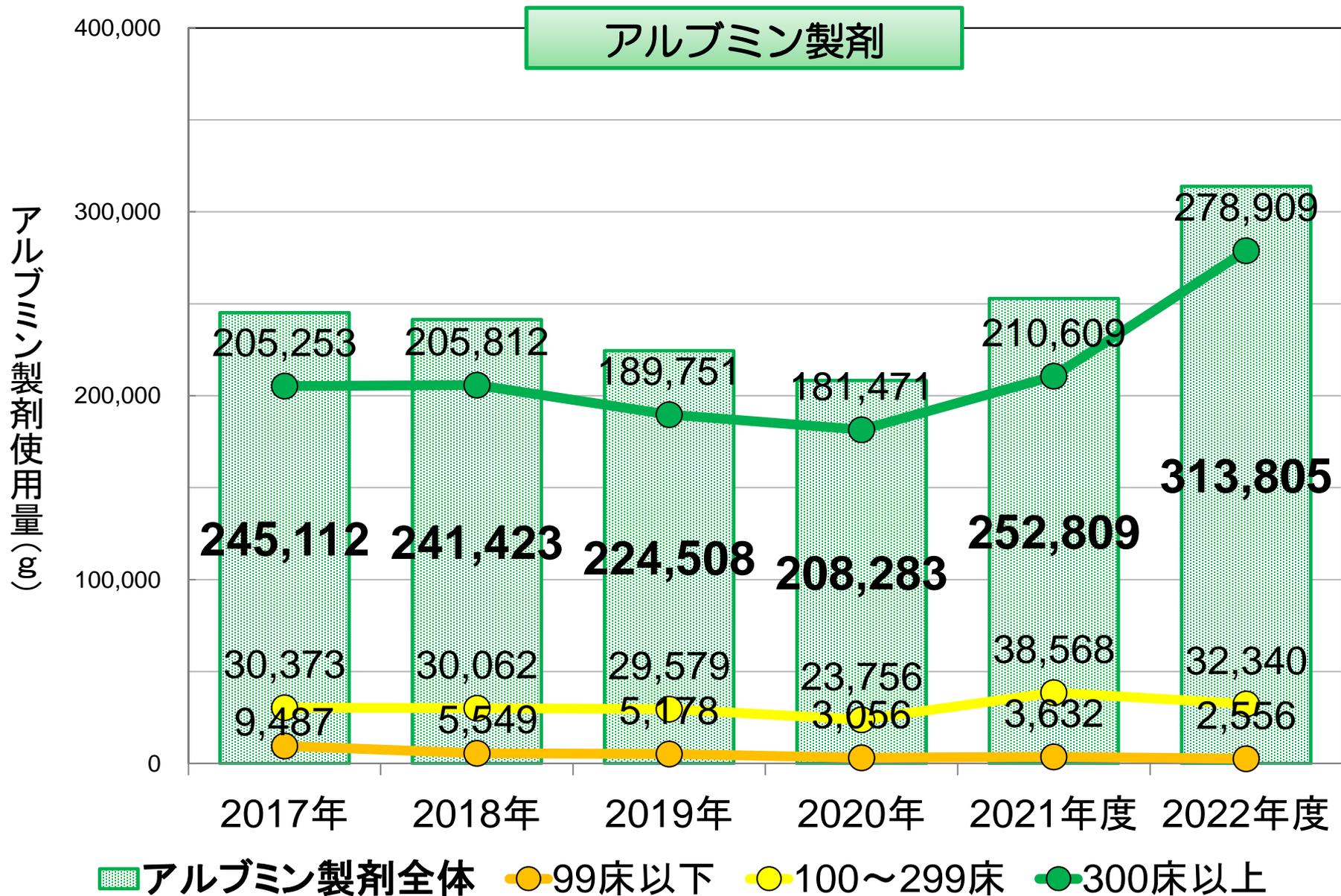


■ 洗浄血小板製剤全体

その他製剤	使用単位数	廃棄単位数
全血製剤	0	0
洗浄赤血球液	12	0
解凍赤血球液	0	0
合成血	0	0

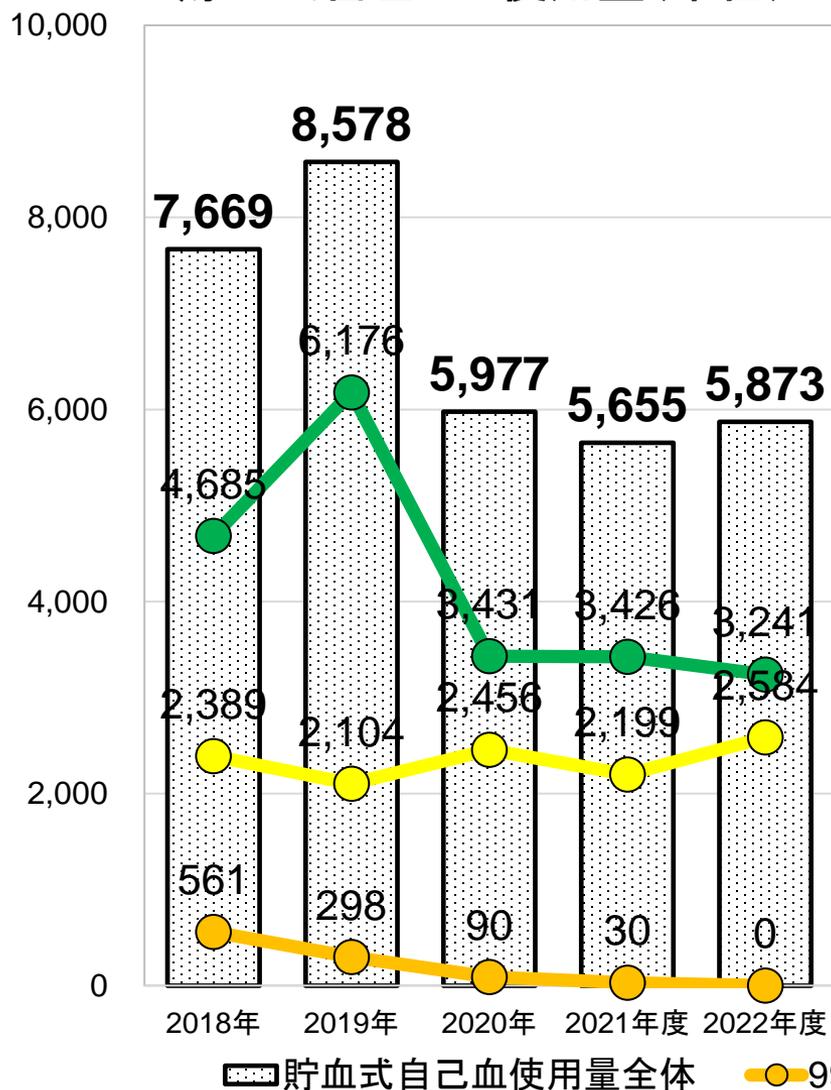


アルブミン製剤の使用状況について

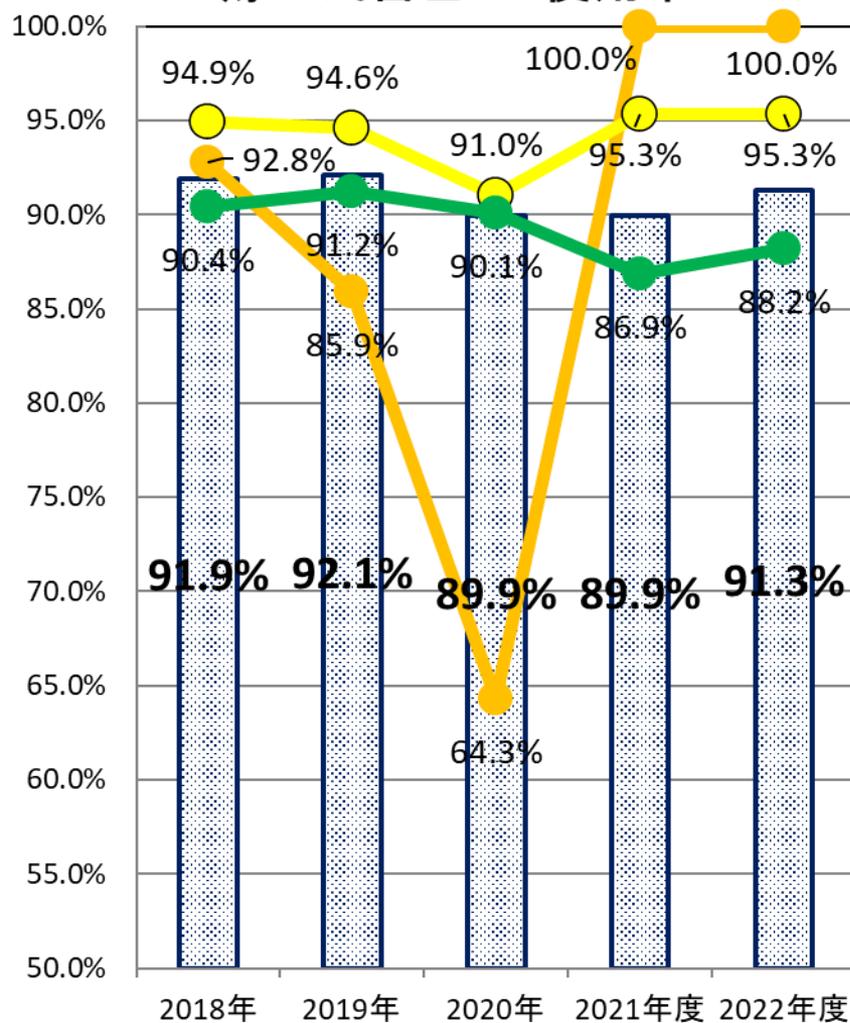


貯血式自己血輸血の実施状況について

貯血式自己血 使用量(単位)



貯血式自己血 使用率

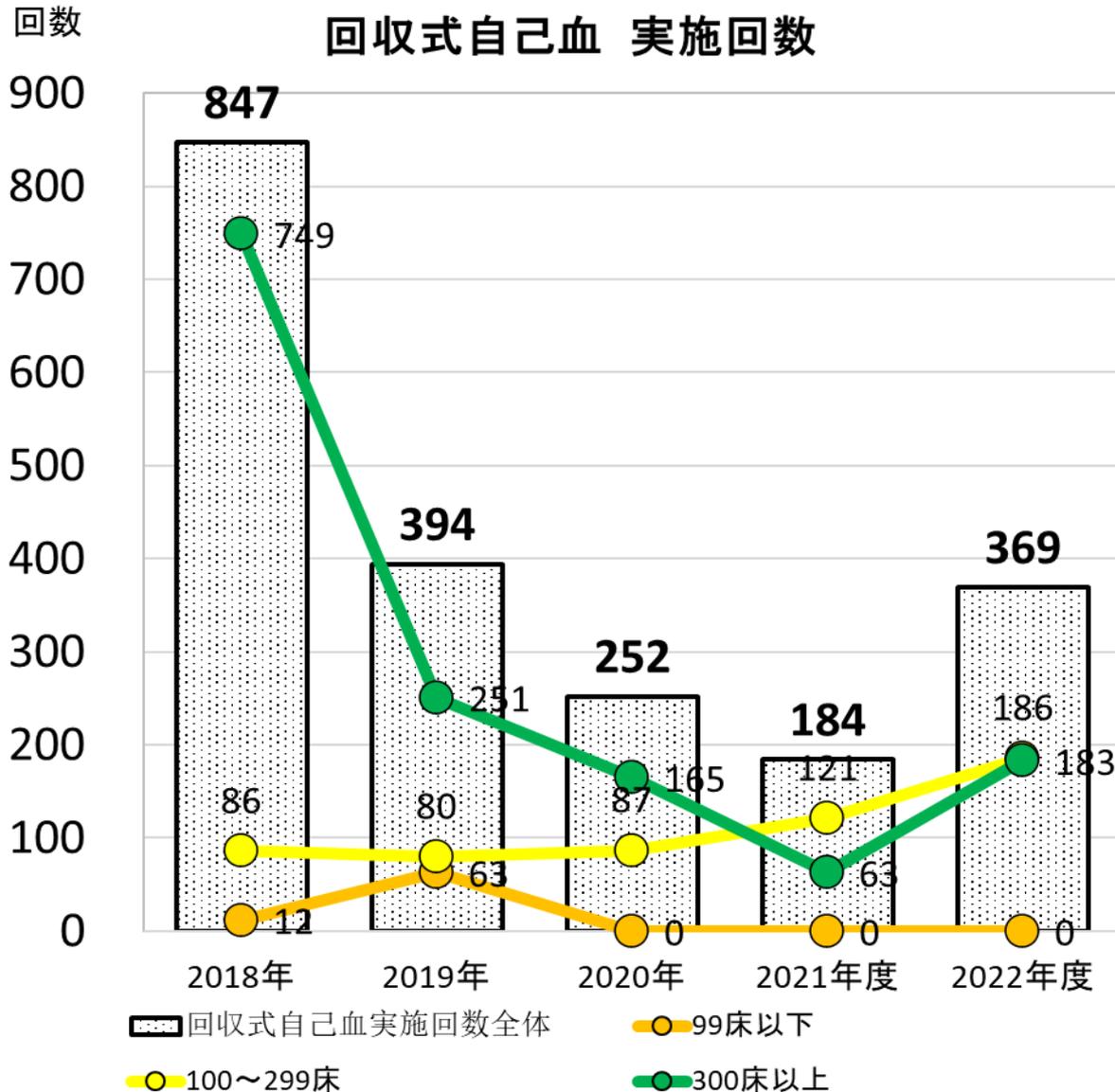


希釈式自己血輸血の実施状況について

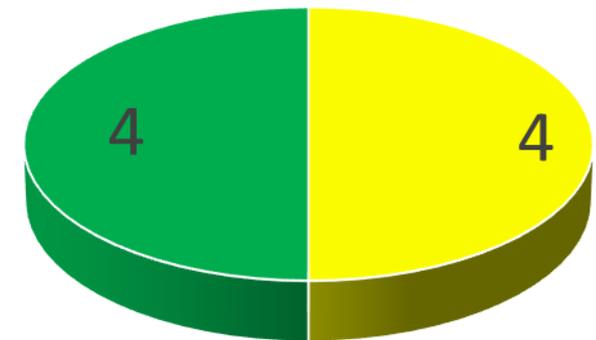
希釈式自己血 使用量(単位)



回収式自己血輸血の実施状況について

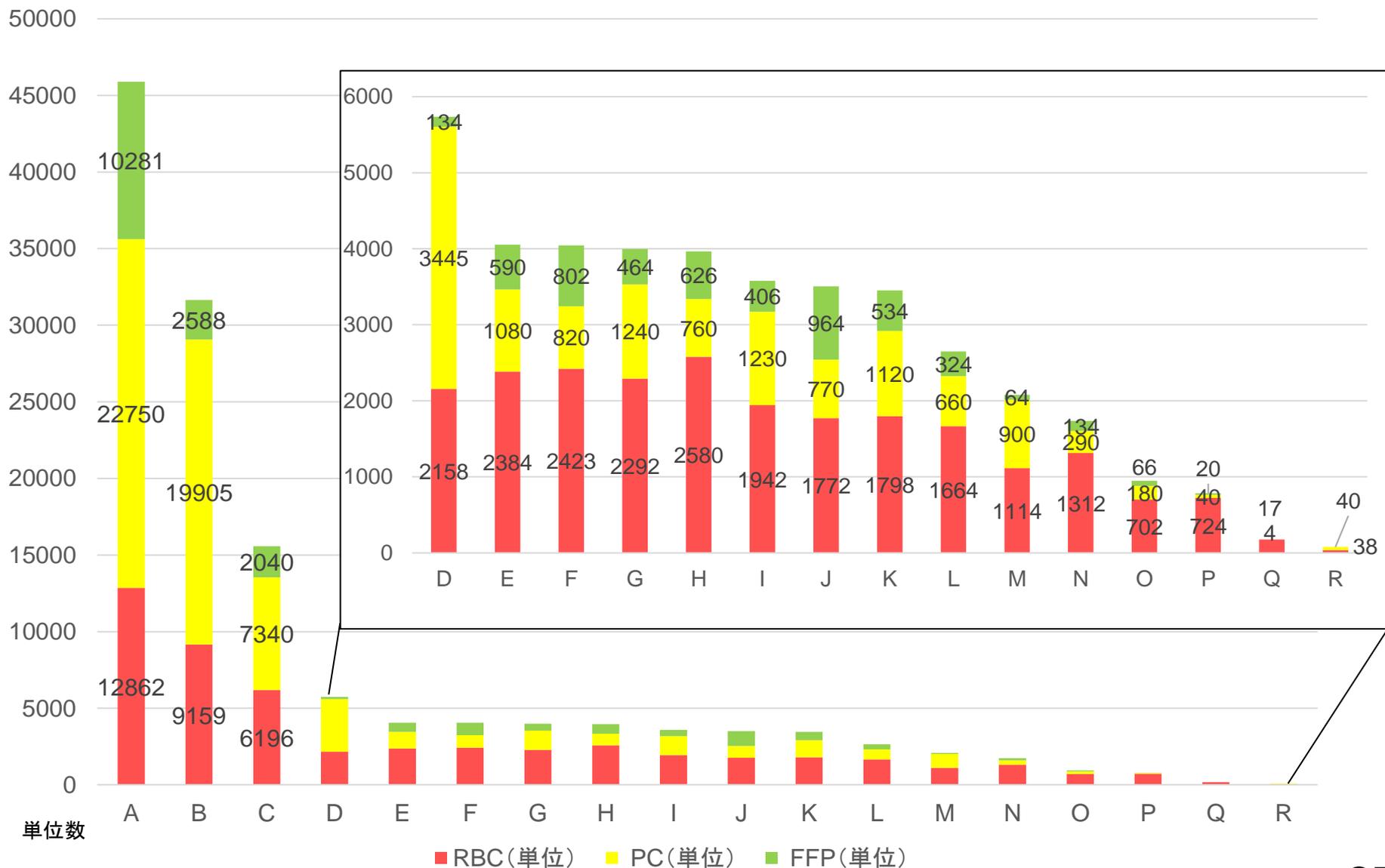


実施施設

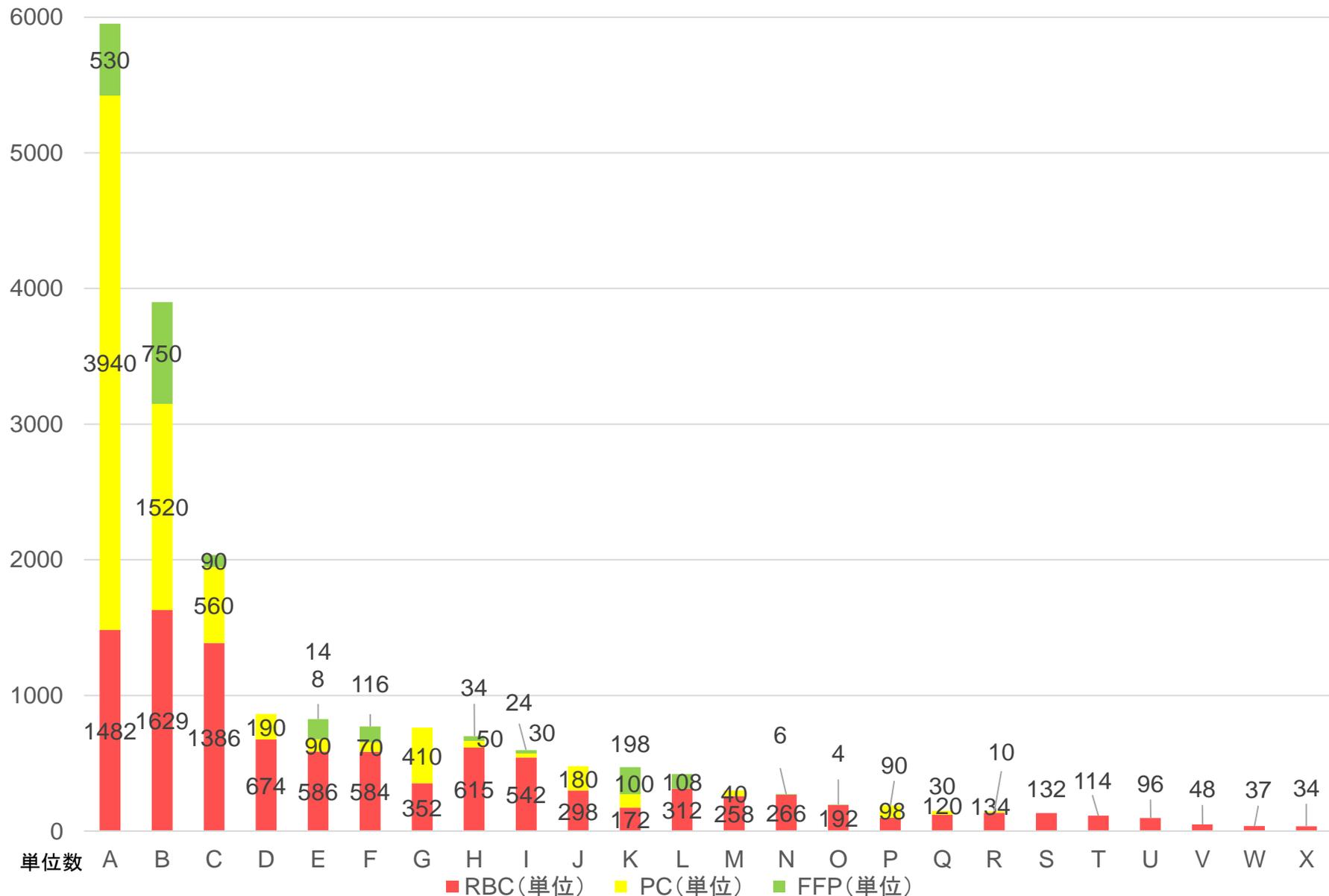


- 99床以下
- 100～299床
- 300床以上

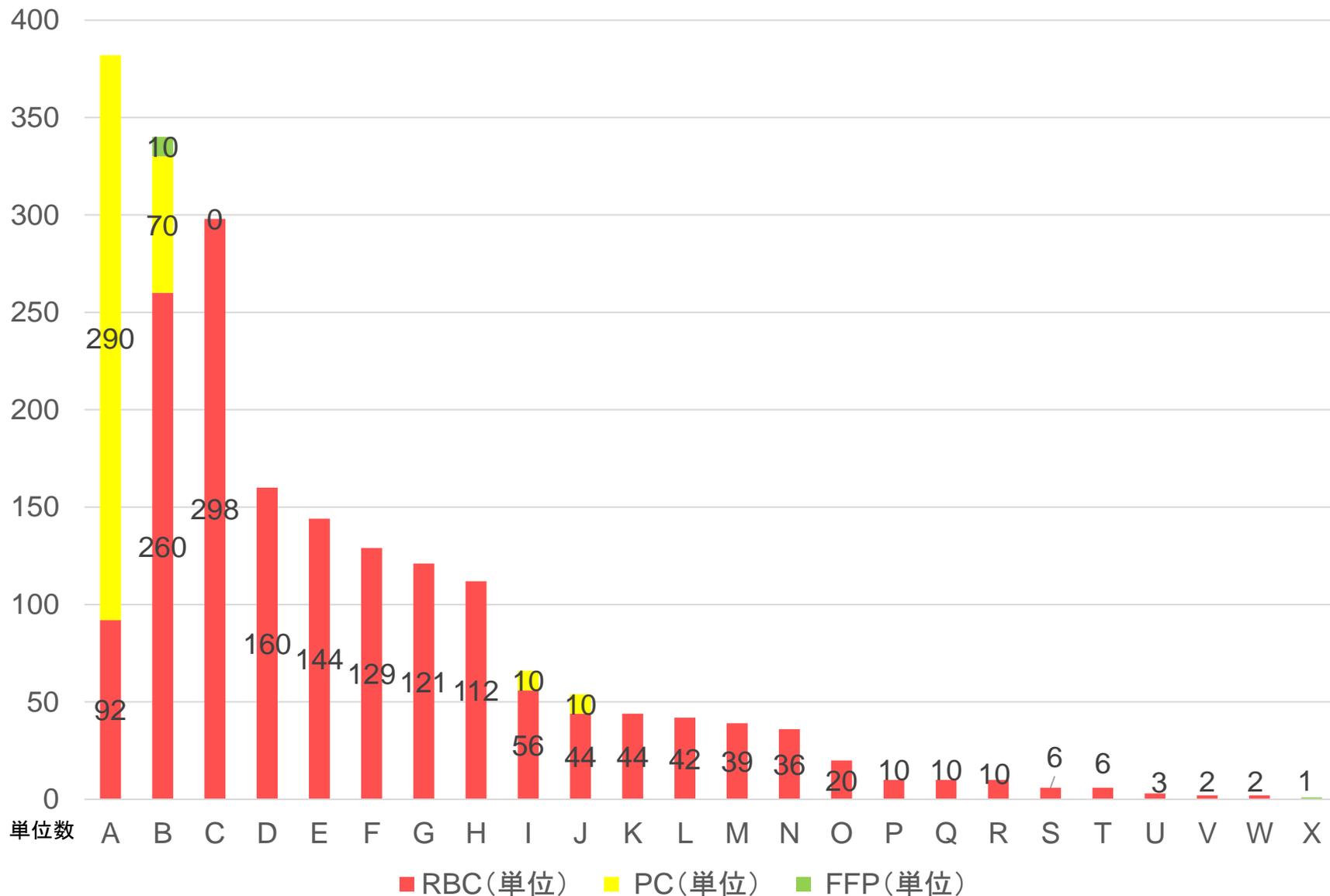
大規模施設(300床以上)使用単位数



中規模施設(100~299床)使用単位数



小規模施設(99床以下)使用単位数



まとめ

- ・「長野県輸血療法マニュアル」の活用施設が前年度より増加した。
- ・インシデント発生件数は前年度と同様、夜勤帯が最も多かった。
- ・インシデント事象の分析・再発防止策後のモニタリングの実施状況について今回の調査で明らかになった。
- ・有効期間延長を理由に赤血球液製剤の院内在庫数を変更した施設があった。
- ・アルブミン製剤の使用量が前年度より増加した。
- ・今年度より施設別使用単位数を再度掲載した。
- ・アンケート結果の公表は、輸血療法等の状況、動向の情報共有に有効である。